

## ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	福本 信太郎
主な担当科目	吹奏楽概論Ⅰ,吹奏楽概論Ⅱ,合奏Ⅰ①,合奏Ⅰ②,合奏Ⅰ③,合奏Ⅰ④,合奏Ⅲ①,合奏Ⅲ③,合奏特別演習,実技個人レッスン[器楽Ⅰ①,器楽Ⅰ②,器楽Ⅰ③,器楽Ⅰ④,器楽実技Ⅱ③]
シラバス	次ページをご参照ください
2022年の教育目標・授業に臨む姿勢	個人レッスンにおいては、ようやく受け持ち人数が適正な程度に落ち着くことが予想されるので、一人ひとりに今までよりもより手厚くきめの細かい対応を心がけたい。授業に関しては大幅に科目数が増えるので授業準備(ICTを生かした教材作成や授業内容の計画)を適切に進め、充実した授業展開や研究活動を行なっていきたい。
2022年の教育に関する自己評価	個々のレッスンでは、体調や生活の変化などを会話の中から聴きとるようにしていたが、ドロップアウトしてしまう学生もあり、対応の難しさを痛感している。多くの学生とは会議時間に左右されずに適正なレッスン環境を保持できたことは嬉しく思う。授業についてはそれぞれの授業で学生との積極的なコミュニケーションを心がけた。学内で充実してきたICT環境を生かした教材を作成し、スムーズかつ理解しやすい授業展開ができたと思う。
2022年のFD活動に関する自己評価	多くのFD研修会に参加し、それぞれの分野における理解を深めることができた。コロナ対応の生活も長くなり、気持ちを引き締めつつも、それらの対応から生まれる新しい課題(や学生の不満など)についても積極的に考えていかなければならないと感じることが多かった。
授業改善のために取り入れた研修内容	様々なタイプの学生について、慎重さを強く意識しながら対応することが多くなった。コロナ対応を検討する上で、丁寧な対応と共に、徐々に緩和される政府案やクラシック事業協会の方針に合わせて柔軟に授業運用を変更するなど、学生のストレスをある程度軽減できるよう心がけた。

科目名－クラス名

## 吹奏楽概論 I

## 曜日時限

火 2時限

## 担当教員

福本 信太郎

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
講義	1～	前期	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				0	100	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

歴史、形態、機能、文化的背景、作曲家と作品の研究を通じて吹奏楽をさまざまな視点から理解し、今日の日本の音楽活動と教育において大きな意味を持ち、多大な注目を集めているこのジャンルにおける優秀な指導者・演奏家・研究者を育成する。

## 学修成果

吹奏楽のきわめて長い歴史と多様な音楽的/文化的背景、さらにその作品を知ることにより、学校の部活動としてのみ認識されがちな吹奏楽の音楽的な本質と社会的/教育的な機能を深く理解し、大学における吹奏楽の研究をより深めることができるだけでなく、将来の吹奏楽の指導者・演奏家としての活動に役立てることができるようになる。

## 授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション：本科目の学修内容と目的について
- 第2回 管・打楽器とアンサンブルの歴史(1) 古代～中世 図版および音源による説明
- 第3回 管・打楽器とアンサンブルの歴史(2) 14～16世紀 図版および音源による説明
- 第4回 管・打楽器とアンサンブルの歴史(3) 17～18世紀 図版および音源による説明
- 第5回 軍楽の意味と活動：ベートーヴェン等、18世紀の軍楽作品を中心に
- 第6回 楽しみ、嗜みとしての管楽：セレナーデ/ディヴェルティメント 特別講師：関口仁客員教授
- 第7回 管・打楽器とアンサンブルの歴史(4) 19世紀 新しい楽器の開発と活用 特別講師：奥山泰三講師
- 第8回 管・打楽器とアンサンブルの歴史(5) 20世紀 図版および音源による説明
- 第9回 各種の編成と形態 特別講師：山戸宏之講師
- 第10回 17～20世紀前半における重要な作品の研究と分析(1)
- 第11回 17～20世紀前半における重要な作品の研究と分析(2)
- 第12回 世界の吹奏楽—その音楽的・文化的な方向と社会的役割
- 第13回 現代日本の吹奏楽—その文化的背景と社会的役割 特別講師：清水大輔 講師
- 第14回 吹奏楽の音楽教育的意味(1) アメリカの「音楽の授業としての吹奏楽」と「グレード」
- 第15回 吹奏楽の音楽教育的意味(2) 教材/教育的なレパートリーの研究 特別講師：清水大輔講師

第16回

第17回

第18回

第19回

第20回

第21回

第22回

第23回

第24回

第25回

第26回

第27回

第28回

第29回

第30回

## 履修上の注意

該当年次履修要項を参照すること。原則として同年次の前期に「吹奏楽概論I」を、後期に「吹奏楽概論II」を履修すること。

■ **授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法**

予習・復習は毎回の授業時に指示され、課題として簡単なリサーチが要求される場合がある。授業には必ずそれらを実施して臨むこと。実施された課題は授業時に点検し、その成果や問題点はクラス全体で共有される。

---

■ **教科書・参考書**

特に指定しない。授業時に必要に応じて資料を配付する。

科目名-クラス名

吹奏楽概論 I

曜日時限

火 2時限

担当教員

福本 信太郎

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
講義	1~	前期	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				0	100	0	0	0	100

教育到達目標と概要

歴史、形態、機能、文化的背景、作曲家と作品の研究を通じて吹奏楽をさまざまな視点から理解し、今日の日本の音楽活動と教育において大きな意味を持ち、多大な注目を集めているこのジャンルにおける優秀な指導者・演奏家・研究者を育成する。

学修成果

吹奏楽のきわめて長い歴史と多様な音楽的/文化的背景、さらにその作品を知ることにより、学校の部活動としてのみ認識されがちな吹奏楽の音楽的な本質と社会的/教育的な機能を深く理解し、大学における吹奏楽の研究をより深めることができるだけでなく、将来の吹奏楽の指導者・演奏家としての活動に役立てることができるようになる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション：本科目の学修内容と目的について
- 第2回 管・打楽器とアンサンブルの歴史(1) 古代~中世 図版および音源による説明
- 第3回 管・打楽器とアンサンブルの歴史(2) 14~16世紀 図版および音源による説明
- 第4回 管・打楽器とアンサンブルの歴史(3) 17~18世紀 図版および音源による説明
- 第5回 軍楽の意味と活動 ベートーヴェン等、18世紀の軍楽作品を中心に
- 第6回 楽しみ、嗜みとしての管楽：セレナーデ/ディヴェルティメント 特別講師：関口仁客員教授
- 第7回 管・打楽器とアンサンブルの歴史(4) 19世紀 新しい楽器の開発と活用 特別講師：奥山泰三講師
- 第8回 管・打楽器とアンサンブルの歴史(5) 20世紀 図版および音源による説明
- 第9回 各種の編成と形態 特別講師：山戸宏之講師
- 第10回 17~20世紀前半における重要な作品の研究と分析(1)
- 第11回 17~20世紀前半における重要な作品の研究と分析(2)
- 第12回 世界の吹奏楽 — その音楽的・文化的な方向と社会的役割
- 第13回 現代日本の吹奏楽 — その文化的背景と社会的役割 特別講師：清水大輔 講師
- 第14回 吹奏楽の音楽教育的意味(1) アメリカの「音楽の授業としての吹奏楽」と「グレード」
- 第15回 吹奏楽の音楽教育的意味(2) 教材/教育的なレパートリーの研究 特別講師：清水大輔講師
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

該当年次履修要項を参照すること。原則として同年次の前期に「吹奏楽概論I」を、後期に「吹奏楽概論II」を履修すること。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

予習・復習は毎回の授業時に指示され、課題として簡単なリサーチが要求される場合がある。授業には必ずそれらを実施して臨むこと。実施された課題は授業時に点検し、その成果や問題点はクラス全体で共有される。

---

■ 教科書・参考書

特に指定しない。授業時に必要に応じて資料を配付する。

科目名－クラス名

## 吹奏楽概論 II

## 曜日時限

火 2時限

## 担当教員

福本 信太郎

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
講義	1～	後期	2	評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト
				評価割合	0	50	0	50	0
									100

## 教育到達目標と概要

各学生は交替で実際に合奏を指揮/指導し、その実践を通じて指導法の基礎を研究する。学生は指導する立場と指導される立場、双方の視点から吹奏楽の指導のあり方と吹奏楽団の育成について多角的に学修する。

## 学修成果

指揮/指導法の習得によって、また教材として用いられる作品や合奏教則本、機器の活用を通じて、将来の吹奏楽の指導者・演奏家としての活動に役立てることができるようになる。

## 授業展開と内容

第1回	吹奏楽の基礎指導
第2回	アナリーゼの初歩と応用
第3回	基本的レパートリー：教材としてのコラルの研究① 教材としての意味づけ、指揮の基本
第4回	基本的レパートリー：教材としてのコラルの研究② 適正なバランスとフレージング
第5回	基本的レパートリー：ファンファーレ&マーチの研究① 教材としての意味づけ、指揮の基本
第6回	基本的レパートリー：ファンファーレ&マーチの研究② アーティキュレーション、息、アタックとリリース、音楽のスタイル
第7回	吹奏楽の指導のためのツールとその活用 特別講師：中村俊哉先生
第8回	指揮/指導の実践Ⅰ：《フレキシブル・コラル集》①
第9回	指揮/指導の実践Ⅰ：《フレキシブル・コラル集》②
第10回	指揮/指導の実践Ⅰ：《フレキシブル・コラル集》③
第11回	指揮/指導の実践Ⅰ：《フレキシブル・コラル集》④
第12回	指揮/指導の実践Ⅱ：《ファンファーレとセレブレーション・マーチ》①
第13回	指揮/指導の実践Ⅱ：《ファンファーレとセレブレーション・マーチ》②
第14回	指揮/指導の実践Ⅱ：《ファンファーレとセレブレーション・マーチ》③
第15回	指揮/指導の実践Ⅱ：《ファンファーレとセレブレーション・マーチ》④
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

## 履修上の注意

該当年次履修要項を参照すること。原則として同年次の前期に「吹奏楽概論Ⅰ」を、後期に「吹奏楽概論Ⅱ」を履修すること。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

研究課題として題材となる作品が指示される。授業には必ずそれらを事前に研究して臨むこと。各履修学生の研究成果はクラス全体で共有される。

---

■ 教科書・参考書

特に指定しない。授業時に必要に応じて楽譜および資料を配付する。

科目名-クラス名

**吹奏楽概論 II**

曜日時限

火 2時限

担当教員

福本 信太郎

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
講義	1~	後期	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				0	50	0	50	0	100

教育到達目標と概要

各学生は交替で実際に合奏を指揮/指導し、その実践を通じて指導法の基礎を研究する。学生は指導する立場と指導される立場、双方の視点から吹奏楽の指導のあり方と吹奏楽団の育成について多角的に学修する。

学修成果

指揮/指導法の習得によって、また教材として用いられる作品や合奏教則本、機器の活用を通じて、将来の吹奏楽の指導者・演奏家としての活動に役立てることができるようになる。

授業展開と内容

- 第1回 吹奏楽の基礎指導
- 第2回 アナリーゼの初歩と応用
- 第3回 基本的レパートリー:教材としてのコラルの研究① 教材としての意味づけ、指揮の基本
- 第4回 基本的レパートリー:教材としてのコラルの研究② 適正なバランスとフレージング
- 第5回 基本的レパートリー:ファンファーレ&マーチの研究① 教材としての意味づけ、指揮の基本
- 第6回 基本的レパートリー:ファンファーレ&マーチの研究② アーティキュレーション、息、アタックとリリース、音楽のスタイル
- 第7回 吹奏楽の指導のためのツールとその活用 特別講師:中村俊哉先生
- 第8回 指揮/指導の実践 I:《フレキシブル・コラル集》①
- 第9回 指揮/指導の実践 I:《フレキシブル・コラル集》②
- 第10回 指揮/指導の実践 I:《フレキシブル・コラル集》③
- 第11回 指揮/指導の実践 I:《フレキシブル・コラル集》④
- 第12回 指揮/指導の実践 II:《ファンファーレとセレブレーション・マーチ》①
- 第13回 指揮/指導の実践 II:《ファンファーレとセレブレーション・マーチ》②
- 第14回 指揮/指導の実践 II:《ファンファーレとセレブレーション・マーチ》③
- 第15回 指揮/指導の実践 II:《ファンファーレとセレブレーション・マーチ》④
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

該当年次履修要項を参照すること。原則として同年次の前期に「吹奏楽概論I」を、後期に「吹奏楽概論II」を履修すること。



■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

研究課題として題材となる作品が指示される。授業には必ずそれらを事前に研究して臨むこと。各履修学生の研究成果はクラス全体で共有される

---

■ 教科書・参考書

特に指定しない。授業時に必要に応じて楽譜および資料を配付する。

科目名－クラス名

## 合奏Ⅰ①

S x

## 曜日時限

金 2時限

水 3時限

## 担当教員

福本 信太郎

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	1～	通年	4		0	0	0	100	0	100

## 教育到達目標と概要

サクソフォーンと同族楽器による合奏は世界各国で盛んに行われており、時には室内乐的繊細さをもった響きを、また時にはシンフォニー・オーケストラ並の迫力と表現力をもつ演奏形態として多くの可能性を持っていると考えられている。本学では長年この編成の演奏研究に取り組んできているが、この形態を系統立てて学ぶため、サクソフォーンの新入生を対象に本講座を開講している。

## 学修成果

合奏実習を通じてアンサンブルの基礎を学び、また個人レッスンだけでは得られない「人とあわせること」における表現力の幅の拡充ができる。アンサンブルを重ねる中で、ソルフェージュ能力（特に音程やリズムについて）を高める事ができる。複数の教員が授業を進める事で多くのレパートリーに触れ、様々な様式（スタイル）について学修する事ができる。（月曜日：彦坂教授・榮村講師・神保講師、水曜日：彦坂教授・福本教授・大森講師、金曜日：福本教授・野原講師・神保講師）

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（パート決め、曲決め等）
第2回	チャイコフスキー：「弦楽セレナーデ」 第1楽章 等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
第3回	チャイコフスキー：「弦楽セレナーデ」 第1楽章 等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
第4回	ドビュッシー：「小組曲」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
第5回	ドビュッシー：「小組曲」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
第6回	グリーグ：「二つの悲しき旋律」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
第7回	グリーグ：「二つの悲しき旋律」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
第8回	グリーグ：「二つの悲しき旋律」等の合奏：作品や作曲家の時代背景の考察と演奏表現の研究
第9回	ウィーラン：「リヴァーダンス」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
第10回	ウィーラン：「リヴァーダンス」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
第11回	ウィーラン：「リヴァーダンス」等の合奏：作品や作曲家の時代背景の考察と演奏表現の研究
第12回	バルトーク：「ルーマニア民族舞曲」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
第13回	バルトーク：「ルーマニア民族舞曲」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
第14回	バルトーク：「ルーマニア民族舞曲」等の合奏：作品や作曲家の時代背景の考察と演奏表現の研究
第15回	前期のまとめ
第16回	後期オリエンテーション（パート決め、曲決め等）
第17回	ビゼー：「カルメン」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
第18回	ビゼー：「カルメン」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
第19回	ショスタコーヴィチ：「祝典序曲」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
第20回	ショスタコーヴィチ：「祝典序曲」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
第21回	ミヨー：「フランス組曲」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
第22回	ミヨー：「フランス組曲」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
第23回	リムスキー＝コルサコフ：「熊蜂の飛行」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
第24回	リムスキー＝コルサコフ：「熊蜂の飛行」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
第25回	吉野由紀子：「アイリッシュダンス」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
第26回	吉野由紀子：「アイリッシュダンス」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
第27回	スーク：「弦楽セレナーデ」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
第28回	スーク：「弦楽セレナーデ」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
第29回	スーク：「弦楽セレナーデ」等の合奏：作品や作曲家の時代背景の考察と演奏表現の研究
第30回	1年のまとめ

**履修上の注意**

合奏においては、どのパートが欠けても問題が生じてしまう。自身の乗り番の時に欠席することが無いようにすること。合奏には指示の書き込み用に鉛筆を持参する。授業で使用する楽譜については教員の指示に従って各自用意すること。また楽譜は著作物であるため、その取り扱いについては十分に注意すること。合奏のためには椅子や譜面台の準備が必須である。授業の前後には積極的にこれらの作業に関わることを。大学所有の楽器を借りる場合は、その取り扱いに十分に注意すること。使用にあたっては消毒作業などが必要になるので時間に余裕を持って準備すること。

**授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法**

合奏は譜読みの場ではない。事前に個人レベルでの譜読みをすませておくこと。（曲の難易度にもよるが、おおそ60分程度）また合奏後にも次回授業に向けて復習を兼ねた自主練習を行うこと（おおそ60分程度）

**教科書・参考書**

適宜配付する

科目名－クラス名

## 合奏Ⅰ①

吹奏楽

## 曜日時限

火 3時限

火 4時限

金 4時限

金 5時限

## 担当教員

福本 信太郎

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	1～	通年	4	0	0	0	100	0	100

## 教育到達目標と概要

年間に数回の学内外演奏会及び発表会を行い、それぞれの公演に向けて個々及びバンド全体の演奏レベルを高めるとともに、楽員一同が集中して1つの楽曲をつくりあげていくときの厳しさ、喜びを体験します（全員が年間に2回以上テアトロ・ジューリオ・ショウワのステージを経験します）。特に定期公演においては授業の研究発表としての演奏のみならず、聴衆の喜びや感動を呼び起こすような個性的なひとつの演奏団体としての成長も目指していきます。

## 学修成果

吹奏楽を経験することにより、大合奏上での様々な制約、約束ごとを理解することができます。

個人レッスンとは異なった面から音楽全体を把握する能力を養うことができます。

アンサンブルのマナーやルールを通じて、演奏家として、また社会人としてふさわしい”人”としてのありかたを身につけることができます。

## 授業展開と内容

## 第1回 前期授業オリエンテーション

・前期の授業説明（基本的に3つのグループに分けて合奏を進めます）や担当教員、各リーダーの紹介などを行います。履修人数が非常に多い授業のため、場合によっては時間と会場を分けて行います。

## 第2回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：譜読み

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：譜読み

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：譜読み

## 第3回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：楽曲分析と演奏へのフィードバック

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：楽曲分析と演奏へのフィードバック

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：楽曲分析と演奏へのフィードバック

## 第4回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：作品と作曲家、時代背景の研究

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：作品と作曲家、時代背景の研究

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：作品と作曲家、時代背景の研究

## 第5回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：ディナーミクとアゴーギクについての考察

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：ディナーミクとアゴーギクについての考察

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：ディナーミクとアゴーギクについての考察

## 第6回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：深い音楽表現と効果的な演奏研究

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：深い音楽表現と効果的な演奏研究

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：深い音楽表現と効果的な演奏研究

## 第7回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：まとめ

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：まとめ

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：第1部まとめ

## 第8回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：授業内発表

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：授業内発表

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：第2部まとめ

## 第9回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）

ウインド・シンフォニー→ユージーン・コーポロン教授による集中練習（月曜日～金曜日）（演奏会は6月4日土曜日）

## 第10回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）

## 第11回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究

## 第12回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：総練習（6月25日土曜日に特別練習あり、演奏会は6月26日日曜日）

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：総練習（6月25日土曜日に特別練習あり、演奏会は6月26日日曜日）

## 第13回 同属楽器アンサンブル特別授業（木管楽器）＊編成は変更の可能性があります。

## 第14回 同属楽器アンサンブル特別授業（金管打楽器）＊編成は変更の可能性があります。

第15回 同属楽器アンサンブル特別授業（プラスバンド）＊編成は変更の可能性があります。

第16回	後期授業オリエンテーション ・後期の授業説明（4つのグループに分けて合奏を進めます）を行います。履修人数が非常に多い授業のため、場合によっては時間と会場を分けて行います。
第17回	ベーシック・バンド→ユリホール（ウインドシンフォニーコース3年）指導実習演奏会リハーサル：譜読み①（前半部） ウインド・オーケストラ→ジーリオ（ウインドシンフォニーコース4年）指導実習演奏会リハーサル：譜読み①（前半部） ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：譜読み①（前半部）
第18回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：譜読み②（後半部） ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：譜読み②（後半部） ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：譜読み②（後半部）
第19回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習①（前半部） ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習①（前半部） ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：楽曲分析と演奏へのフィードバック
第20回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習②（後半部） ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習②（後半部） ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：作品と作曲家、時代背景の研究
第21回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習③（全体） ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習③（全体） ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：ディナーミックとアゴーギクについての考察
第22回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：指揮法レッスン ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：指揮法レッスン ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究（演奏会は11月6日）
第23回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：楽曲分析および作品と作曲家、時代背景の研究 ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：楽曲分析および作品と作曲家、時代背景の研究 吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：譜読み ウインド・シンフォニー→レコーディング実習：譜読み
第24回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：ディナーミックとアゴーギクについての考察 ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：ディナーミックとアゴーギクについての考察 吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：楽曲分析と演奏へのフィードバック ウインド・シンフォニー→レコーディング実習：深い音楽表現と効果的な演奏研究（収録日未定）
第25回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究 ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究 吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：作品と作曲家の時代背景の研究、ディナーミックとアゴーギクについての考察
第26回	ベーシック・バンド→総練習とウインドシンフォニーコース3年指導実習演奏会（ユリホール） ウインド・オーケストラ→総練習とウインドシンフォニーコース4年指導実習演奏会（ジーリオ） 吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究および総練習（12月3日土曜日に特別練習有り）（演奏会は12月4日）
第27回	ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：譜読み 同属楽器アンサンブル特別授業（木管楽器）＊編成は変更の可能性があります。
第28回	ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：バンドのみでの練習 同属楽器アンサンブル特別授業（金管打楽器）＊編成は変更の可能性があります。
第29回	ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：ソロ合わせ 同属楽器アンサンブル特別授業（プラスバンド）＊編成は変更の可能性があります。
第30回	ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：総練習と発表演奏

### 履修上の注意

細かな予定については楽器室前の掲示板上に随時発表するのでよく確認すること。合奏においては、どのパートが欠けても問題が生じてしまいます。自身の乗り番の時には欠席は認められません（やむを得ない場合は事前にインスペクターに所定の方法で届け出て下さい）。合奏には指示の書き込み用に2B以上の鉛筆を持参すること。授業で使用する楽譜についてはライブラリアンの指示に従って各自用意して下さい。合奏のためには椅子や譜面台の準備、片付けが必須です。消毒などが必要な場合もあるので授業時間の前後には積極的に作業に参加して下さい。

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

合奏は個人の譜読みの場ではありません。事前に楽譜が準備出来ている場合は、必ず個人レベルでの譜読みを済ませておくこと（曲数や難易度にもよりますが60分程度の予習復習を心掛けましょう）。また自分が演奏しない演奏会にも聴衆として積極的に参加し、良い学修の機会として下さい。また依頼等の状況によりDVD収録やCD録音など特別な実習を行うことがあります。

### 教科書・参考書

特になし

科目名－クラス名

**合奏Ⅰ①**

S x

曜日時限

金 2時限

水 3時限

担当教員

福本 信太郎

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	1～	通年	4		0	0	0	100	0	100

教育到達目標と概要

サクソフォーンと同族楽器による合奏は世界各国で盛んに行われており、時には室内乐的繊細さをもった響きを、また時にはシンフォニー・オーケストラ並の迫力と表現力をもつ演奏形態として多くの可能性を持っていると考えられている。本学では長年この編成の演奏研究に取り組んできているが、この形態を系統立てて学ぶため、サクソフォーンの新入生を対象に本講座を開講している。

学修成果

合奏実習を通じてアンサンブルの基礎を学び、また個人レッスンだけでは得られない「人とあわせること」における表現力の幅の拡充ができる。アンサンブルを重ねる中で、ソルフェージュ能力（特に音程やリズムについて）を高める事ができる。複数の教員が授業を進める事で多くのレパートリーに触れ、様々な様式（スタイル）について学修する事ができる。（月曜日：彦坂教授・榮村講師・神保講師、水曜日：彦坂教授・福本教授・大森講師、金曜日：福本教授・野原講師・神保講師）

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（パート決め、曲決め等）
- 第2回 チャイコフスキー：「弦楽セレナーデ」 第1楽章 等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
- 第3回 チャイコフスキー：「弦楽セレナーデ」 第1楽章 等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
- 第4回 ドビュッシー：「小組曲」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
- 第5回 ドビュッシー：「小組曲」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
- 第6回 グリーグ：「二つの悲しき旋律」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
- 第7回 グリーグ：「二つの悲しき旋律」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
- 第8回 グリーグ：「二つの悲しき旋律」等の合奏：作品や作曲家の時代背景の考察と演奏表現の研究
- 第9回 ウィーラン：「リヴァーダンス」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
- 第10回 ウィーラン：「リヴァーダンス」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
- 第11回 ウィーラン：「リヴァーダンス」等の合奏：作品や作曲家の時代背景の考察と演奏表現の研究
- 第12回 バルトーク：「ルーマニア民族舞曲」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
- 第13回 バルトーク：「ルーマニア民族舞曲」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
- 第14回 バルトーク：「ルーマニア民族舞曲」等の合奏：作品や作曲家の時代背景の考察と演奏表現の研究
- 第15回 前期のまとめ
- 第16回 後期オリエンテーション（パート決め、曲決め等）
- 第17回 ビゼー：「カルメン」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
- 第18回 ビゼー：「カルメン」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
- 第19回 ショスタコーヴィチ：「祝典序曲」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
- 第20回 ショスタコーヴィチ：「祝典序曲」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
- 第21回 ミヨー：「フランス組曲」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
- 第22回 ミヨー：「フランス組曲」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
- 第23回 リムスキー＝コルサコフ：「熊蜂の飛行」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
- 第24回 リムスキー＝コルサコフ：「熊蜂の飛行」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
- 第25回 吉野由紀子：「アイリッシュダンス」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
- 第26回 吉野由紀子：「アイリッシュダンス」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
- 第27回 スーク：「弦楽セレナーデ」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
- 第28回 スーク：「弦楽セレナーデ」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
- 第29回 スーク：「弦楽セレナーデ」等の合奏：作品や作曲家の時代背景の考察と演奏表現の研究
- 第30回 1年のまとめ

### 履修上の注意

合奏においては、どのパートが欠けても問題が生じてしまう。自身の乗り番の時に欠席することが無いようにすること。合奏には指示の書き込み用に鉛筆を持参する。授業で使用する楽譜については教員の指示に従って各自用意すること。また楽譜は著作物であるため、その取り扱いについては十分に注意すること。合奏のためには椅子や譜面台の準備が必須である。授業の前後には積極的にこれらの作業に関わることを。大学所有の楽器を借りる場合は、その取り扱いに十分に注意すること。使用にあたっては消毒作業などが必要になるので時間に余裕を持って準備す

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

合奏は譜読みの場ではない。事前に個人レベルでの譜読みをすませておくこと。(曲の難易度にもよるが、おおよそ60分程度) また合奏後にも次回授業に向けて復習を兼ねた自主練習を行うこと (おおよそ60分程度)

### 教科書・参考書

適宜配付する

科目名－クラス名

## 合奏Ⅰ①

吹奏楽

## 曜日時限

火 3時限  
火 4時限  
金 4時限  
金 5時限

## 担当教員

福本 信太郎

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	1～	通年	4	評価割合	0	0	0	100	0	100

## 教育到達目標と概要

年間に数回の学内外演奏会及び発表会を行い、それぞれの公演に向けて個々及びバンド全体の演奏レベルを高めるとともに、楽員一同が集中して1つの楽曲をつくりあげていくときの厳しさ、喜びを体験します（全員が年間に2回以上テアトロ・ジューリオ・ショウワのステージを経験します）。特に定期公演においては授業の研究発表としての演奏のみならず、聴衆の喜びや感動を呼び起こすような個性的なひとつの演奏団体としての成長も目指していきます。

## 学修成果

吹奏楽を経験することにより、大合奏上での様々な制約、約束ごとを理解することができます。

個人レッスンとは異なった面から音楽全体を把握する能力を養うことができます。

アンサンブルのマナーやルールを通じて、演奏家として、また社会人としてふさわしい”人”としてのありかたを身につけることができます。

## 授業展開と内容

## 第1回 前期授業オリエンテーション

・前期の授業説明（基本的に3つのグループに分けて合奏を進めます）や担当教員、各リーダーの紹介などを行います。履修人数が非常に多い授業のため、場合によっては時間と会場を分けて行います。

## 第2回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：譜読み

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：譜読み  
ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：譜読み

## 第3回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：楽曲分析と演奏へのフィードバック

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：楽曲分析と演奏へのフィードバック  
ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：楽曲分析と演奏へのフィードバック

## 第4回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：作品と作曲家、時代背景の研究

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：作品と作曲家、時代背景の研究  
ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：作品と作曲家、時代背景の研究

## 第5回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：ディナーミクとアゴーギクについての考察

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：ディナーミクとアゴーギクについての考察  
ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：ディナーミクとアゴーギクについての考察

## 第6回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：深い音楽表現と効果的な演奏研究

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：深い音楽表現と効果的な演奏研究  
ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：深い音楽表現と効果的な演奏研究

## 第7回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：まとめ

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：まとめ  
ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：第1部まとめ

## 第8回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：授業内発表

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：授業内発表  
ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：第2部まとめ

## 第9回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）  
ウインド・シンフォニー→ユージーン・コーポロン教授による集中練習（月曜日～金曜日）（演奏会は6月4日土曜日）

## 第10回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）

## 第11回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究

## 第12回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：総練習（6月25日土曜日に特別練習あり、演奏会は6月26日日曜日）

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：総練習（6月25日土曜日に特別練習あり、演奏会は6月26日日曜日）

## 第13回 同属楽器アンサンブル特別授業（木管楽器）＊編成は変更の可能性があります。

## 第14回 同属楽器アンサンブル特別授業（金管打楽器）＊編成は変更の可能性があります。



第15回 同属楽器アンサンブル特別授業（プラスバンド）＊編成は変更の可能性があります。

第16回 後期授業オリエンテーション  
・後期の授業説明（4つのグループに分けて合奏を進めます）を行います。履修人数が非常に多い授業のため、場合によっては時間と会場を分けて行います。

第17回 ベーシック・バンド→ユリホール（ウインドシンフォニーコース3年）指導実習演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ（ウインドシンフォニーコース4年）指導実習演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）  
ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：譜読み①（前半部）

第18回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）  
ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：譜読み②（後半部）

第19回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習①（前半部）  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習①（前半部）  
ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：楽曲分析と演奏へのフィードバック

第20回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習②（後半部）  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習②（後半部）  
ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：作品と作曲家、時代背景の研究

第21回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習③（全体）  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習③（全体）  
ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：ディナーミックとアゴーギクについての考察

第22回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：指揮法レッスン  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：指揮法レッスン  
ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究（演奏会は11月6日）

第23回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：楽曲分析および作品と作曲家、時代背景の研究  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：楽曲分析および作品と作曲家、時代背景の研究  
吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：譜読み  
ウインド・シンフォニー→レコーディング実習：譜読み

第24回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：ディナーミックとアゴーギクについての考察  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：ディナーミックとアゴーギクについての考察  
吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：楽曲分析と演奏へのフィードバック  
ウインド・シンフォニー→レコーディング実習：深い音楽表現と効果的な演奏研究（収録日未定）

第25回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究  
吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：作品と作曲家の時代背景の研究、ディナーミックとアゴーギクについての考察

第26回 ベーシック・バンド→総練習とウインドシンフォニーコース3年指導実習演奏会（ユリホール）  
ウインド・オーケストラ→総練習とウインドシンフォニーコース4年指導実習演奏会（ジーリオ）  
吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究および総練習（12月3日土曜日に特別練習有り）（演奏会は12月4日）

第27回 ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：譜読み  
同属楽器アンサンブル特別授業（木管楽器）＊編成は変更の可能性があります。

第28回 ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：バンドのみでの練習  
同属楽器アンサンブル特別授業（金管打楽器）＊編成は変更の可能性があります。

第29回 ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：ソロ合わせ  
同属楽器アンサンブル特別授業（プラスバンド）＊編成は変更の可能性があります。

第30回 ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：総練習と発表演奏

### 履修上の注意

細かな予定については楽器室前の掲示板上に随時発表するのでよく確認すること。合奏においては、どのパートが欠けても問題が生じてしまいます。自身の乗り番の時には欠席は認められません（やむを得ない場合は事前にインスペクターに所定の方法で届け出て下さい）。合奏には指示の書き込み用に2B以上の鉛筆を持参すること。授業で使用する楽譜についてはライブラリアンの指示に従って各自用意して下さい。合奏のためには椅子や譜面台の準備、片付けが必須です。消毒などが必要な場合もあるので授業時間の前後には積極的に作業に参加して下さい。

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

合奏は個人の譜読みの場ではありません。事前に楽譜が準備出来ている場合は、必ず個人レベルでの譜読みを済ませておくこと（曲数や難易度にもよりますが60分程度の予習復習を心掛けましょう）。また自分が演奏しない演奏会にも聴衆として積極的に参加し、良い学修の機会として下さい。また依頼等の状況によりDVD収録やCD録音など特別な実習を行うことがあります。

### 教科書・参考書

特になし

科目名－クラス名

## 合奏Ⅰ②

吹奏楽

## 曜日時限

火 3時限

火 4時限

金 4時限

金 5時限

## 担当教員

福本 信太郎

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	2～	通年	4	0	0	0	100	0	100

## 教育到達目標と概要

年間に数回の学内外演奏会及び発表会を行い、それぞれの公演に向けて個々及びバンド全体の演奏レベルを高めるとともに、楽員一同が集中して1つの楽曲をつくりあげていくときの厳しさ、喜びを体験します（全員が年間に2回以上テアトロ・ジューリオ・ショウワのステージを経験します）。特に定期公演においては授業の研究発表としての演奏のみならず、聴衆の喜びや感動を呼び起こすような個性的なひとつの演奏団体としての成長も目指していきます。

## 学修成果

吹奏楽を経験することにより、大合奏上での様々な制約、約束ごとを理解することができます。

個人レッスンとは異なった面から音楽全体を把握する能力を養うことができます。

アンサンブルのマナーやルールを通じて、演奏家として、また社会人としてふさわしい”人”としてのありかたを身につけることができます。

## 授業展開と内容

## 第1回 前期授業オリエンテーション

・前期の授業説明（基本的に3つのグループに分けて合奏を進めます）や担当教員、各リーダーの紹介などを行います。履修人数が非常に多い授業のため、場合によっては時間と会場を分けて行います。

## 第2回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：譜読み

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：譜読み

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：譜読み

## 第3回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：楽曲分析と演奏へのフィードバック

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：楽曲分析と演奏へのフィードバック

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：楽曲分析と演奏へのフィードバック

## 第4回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：作品と作曲家、時代背景の研究

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：作品と作曲家、時代背景の研究

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：作品と作曲家、時代背景の研究

## 第5回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：ディナーミクとアゴーギクについての考察

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：ディナーミクとアゴーギクについての考察

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：ディナーミクとアゴーギクについての考察

## 第6回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：深い音楽表現と効果的な演奏研究

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：深い音楽表現と効果的な演奏研究

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：深い音楽表現と効果的な演奏研究

## 第7回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：まとめ

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：まとめ

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：第1部まとめ

## 第8回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：授業内発表

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：授業内発表

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：第2部まとめ

## 第9回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）

ウインド・シンフォニー→ユージーン・コーポロン教授による集中練習（月曜日～金曜日）（演奏会は6月4日土曜日）

## 第10回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）

## 第11回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究

## 第12回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：総練習（6月25日土曜日に特別練習あり、演奏会は6月26日日曜日）

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：総練習（6月25日土曜日に特別練習あり、演奏会は6月26日日曜日）

## 第13回 同属楽器アンサンブル特別授業（木管楽器）＊編成は変更の可能性があります。

## 第14回 同属楽器アンサンブル特別授業（金管打楽器）＊編成は変更の可能性があります。

第15回 同属楽器アンサンブル特別授業（プラスバンド）＊編成は変更の可能性があります。

第16回	後期授業オリエンテーション ・後期の授業説明（4つのグループに分けて合奏を進めます）を行います。履修人数が非常に多い授業のため、場合によっては時間と会場を分けて行います。
第17回	ベーシック・バンド→ユリホール（ウインドシンフォニーコース3年）指導実習演奏会リハーサル：譜読み①（前半部） ウインド・オーケストラ→ジーリオ（ウインドシンフォニーコース4年）指導実習演奏会リハーサル：譜読み①（前半部） ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：譜読み①（前半部）
第18回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：譜読み②（後半部） ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：譜読み②（後半部） ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：譜読み②（後半部）
第19回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習①（前半部） ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習①（前半部） ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：楽曲分析と演奏へのフィードバック
第20回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習②（後半部） ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習②（後半部） ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：作品と作曲家、時代背景の研究
第21回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習③（全体） ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習③（全体） ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：ディナーミックとアゴーギクについての考察
第22回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：指揮法レッスン ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：指揮法レッスン ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究（演奏会は11月6日）
第23回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：楽曲分析および作品と作曲家、時代背景の研究 ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：楽曲分析および作品と作曲家、時代背景の研究 吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：譜読み ウインド・シンフォニー→レコーディング実習：譜読み
第24回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：ディナーミックとアゴーギクについての考察 ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：ディナーミックとアゴーギクについての考察 吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：楽曲分析と演奏へのフィードバック ウインド・シンフォニー→レコーディング実習：深い音楽表現と効果的な演奏研究（収録日未定）
第25回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究 ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究 吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：作品と作曲家の時代背景の研究、ディナーミックとアゴーギクについての考察
第26回	ベーシック・バンド→総練習とウインドシンフォニーコース3年指導実習演奏会（ユリホール） ウインド・オーケストラ→総練習とウインドシンフォニーコース4年指導実習演奏会（ジーリオ） 吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究および総練習（12月3日土曜日に特別練習有り）（演奏会は12月4日）
第27回	ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：譜読み 同属楽器アンサンブル特別授業（木管楽器）＊編成は変更の可能性があります。
第28回	ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：バンドのみでの練習 同属楽器アンサンブル特別授業（金管打楽器）＊編成は変更の可能性があります。
第29回	ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：ソロ合わせ 同属楽器アンサンブル特別授業（プラスバンド）＊編成は変更の可能性があります。
第30回	ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：総練習と発表演奏

## 履修上の注意

細かな予定については楽器室前の掲示板上に随時発表するのでよく確認すること。合奏においては、どのパートが欠けても問題が生じてしまいます。自身の乗り番の時には欠席は認められません（やむを得ない場合は事前にインスペクターに所定の方法で届け出て下さい）。合奏には指示の書き込み用に2B以上の鉛筆を持参すること。授業で使用する楽譜についてはライブラリアンの指示に従って各自用意して下さい。合奏のためには椅子や譜面台の準備、片付けが必須です。消毒などが必要な場合もあるので授業時間の前後には積極的に作業に参加して下さい。

## 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

合奏は個人の譜読みの場ではありません。事前に楽譜が準備出来ている場合は、必ず個人レベルでの譜読みを済ませておくこと（曲数や難易度にもよりますが60分程度の予習復習を心掛けましょう）。また自分が演奏しない演奏会にも聴衆として積極的に参加し、良い学修の機会として下さい。また依頼等の状況によりDVD収録やCD録音など特別な実習を行うことがあります。

## 教科書・参考書

特になし

科目名-クラス名

合奏 I ②

吹奏楽

曜日時限

火 3時限  
火 4時限  
金 4時限  
金 5時限

担当教員

福本 信太郎

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	2~	通年	4	0	0	0	100	0	100

教育到達目標と概要

年間に数回の学内外演奏会及び発表会を行い、それぞれの公演に向けて個々及びバンド全体の演奏レベルを高めるとともに、楽員一同が集中して1つの楽曲をつくりあげていくときの厳しさ、喜びを体験します（全員が年間に2回以上テアトロ・ジューリオ・ショウワのステージを経験します）。特に定期公演においては授業の研究発表としての演奏のみならず、聴衆の喜びや感動を呼び起こすような個性的なひとつの演奏団体としての成長も目指していきます。

学修成果

吹奏楽を経験することにより、大合奏上での様々な制約、約束ごとを理解することができます。個人レッスンとは異なった面から音楽全体を把握する能力を養うことができます。アンサンブルのマナーやルールを通じて、演奏家として、また社会人としてふさわしい”人”としてのありかたを身につけることができます。

授業展開と内容

- 第1回 前期授業オリエンテーション  
・前期の授業説明（基本的に3つのグループに分けて合奏を進めます）や担当教員、各リーダーの紹介などを行います。履修人数が非常に多い授業のため、場合によっては時間と会場を分けて行います。
- 第2回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：譜読み  
ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：譜読み  
ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：譜読み
- 第3回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：楽曲分析と演奏へのフィードバック  
ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：楽曲分析と演奏へのフィードバック  
ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：楽曲分析と演奏へのフィードバック
- 第4回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：作品と作曲家、時代背景の研究  
ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：作品と作曲家、時代背景の研究  
ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：作品と作曲家、時代背景の研究
- 第5回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：ディナーミクとアゴーギクについての考察  
ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：ディナーミクとアゴーギクについての考察  
ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：ディナーミクとアゴーギクについての考察
- 第6回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：深い音楽表現と効果的な演奏研究  
ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：深い音楽表現と効果的な演奏研究  
ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：深い音楽表現と効果的な演奏研究
- 第7回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：まとめ  
ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：まとめ  
ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：第1部まとめ
- 第8回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：授業内発表  
ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：授業内発表  
ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：第2部まとめ
- 第9回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）  
ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）  
ウインド・シンフォニー→ユージーン・コーポロン教授による集中練習（月曜日～金曜日）（演奏会は6月4日土曜日）
- 第10回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）  
ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）
- 第11回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究  
ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究
- 第12回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：総練習（6月25日土曜日に特別練習あり、演奏会は6月26日日曜日）  
ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：総練習（6月25日土曜日に特別練習あり、演奏会は6月26日日曜日）
- 第13回 同属楽器アンサンブル特別授業（木管楽器）＊編成は変更の可能性があります。
- 第14回 同属楽器アンサンブル特別授業（金管打楽器）＊編成は変更の可能性があります。

第15回 同属楽器アンサンブル特別授業（プラスバンド）＊編成は変更の可能性があります。

第16回 後期授業オリエンテーション  
・後期の授業説明（4つのグループに分けて合奏を進めます）を行います。履修人数が非常に多い授業のため、場合によっては時間と会場を分けて行います。

第17回 ベーシック・バンド→ユリホール（ウインドシンフォニーコース3年）指導実習演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ（ウインドシンフォニーコース4年）指導実習演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）  
ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：譜読み①（前半部）

第18回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）  
ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：譜読み②（後半部）

第19回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習①（前半部）  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習①（前半部）  
ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：楽曲分析と演奏へのフィードバック

第20回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習②（後半部）  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習②（後半部）  
ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：作品と作曲家、時代背景の研究

第21回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習③（全体）  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習③（全体）  
ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：ディナーミクとアゴーギクについての考察

第22回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：指揮法レッスン  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：指揮法レッスン  
ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究（演奏会は11月6日）

第23回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：楽曲分析および作品と作曲家、時代背景の研究  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：楽曲分析および作品と作曲家、時代背景の研究  
吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：譜読み  
ウインド・シンフォニー→レコーディング実習：譜読み

第24回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：ディナーミクとアゴーギクについての考察  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：ディナーミクとアゴーギクについての考察  
吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：楽曲分析と演奏へのフィードバック  
ウインド・シンフォニー→レコーディング実習：深い音楽表現と効果的な演奏研究（収録日未定）

第25回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究  
吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：作品と作曲家の時代背景の研究、ディナーミクとアゴーギクについての考察

第26回 ベーシック・バンド→総練習とウインドシンフォニーコース3年指導実習演奏会（ユリホール）  
ウインド・オーケストラ→総練習とウインドシンフォニーコース4年指導実習演奏会（ジーリオ）  
吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究および総練習（12月3日土曜日に特別練習有り）（演奏会は12月4日）

第27回 ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：譜読み  
同属楽器アンサンブル特別授業（木管楽器）＊編成は変更の可能性があります。

第28回 ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：バンドのみでの練習  
同属楽器アンサンブル特別授業（金管打楽器）＊編成は変更の可能性があります。

第29回 ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：ソロ合わせ  
同属楽器アンサンブル特別授業（プラスバンド）＊編成は変更の可能性があります。

第30回 ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：総練習と発表演奏

### 履修上の注意

細かな予定については楽器室前の掲示板上に随時発表するのでよく確認すること。合奏においては、どのパートが欠けても問題が生じてしまいます。自身の乗り番の時には欠席は認められません（やむを得ない場合は事前にインスペクターに所定の方法で届け出て下さい）。合奏には指示の書き込み用に2B以上の鉛筆を持参すること。授業で使用する楽譜についてはライブラリアンの指示に従って各自用意して下さい。合奏のためには椅子や譜面台の準備、片付けが必須です。消毒などが必要な場合もあるので授業時間の前後には積極的に作業に参加して下さい。

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

合奏は個人の譜読みの場ではありません。事前に楽譜が準備出来ている場合は、必ず個人レベルでの譜読みを済ませておくこと（曲数や難易度にもよりますが60分程度の予習復習を心掛けましょう）。また自分が演奏しない演奏会にも聴衆として積極的に参加し、良い学修の機会として下さい。また依頼等の状況によりDVD収録やCD録音など特別な実習を行うことがあります。

### 教科書・参考書

特になし

科目名－クラス名

## 合奏Ⅰ③

吹奏楽

## 曜日時限

火 3時限

火 4時限

金 4時限

金 5時限

## 担当教員

福本 信太郎

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	3～	通年	4	0	0	0	100	0	100

## 教育到達目標と概要

年間に数回の学内外演奏会及び発表会を行い、それぞれの公演に向けて個々及びバンド全体の演奏レベルを高めるとともに、楽員一同が集中して1つの楽曲をつくりあげていくときの厳しさ、喜びを体験します（全員が年間に2回以上テアトロ・ジューリオ・ショウワのステージを経験します）。特に定期公演においては授業の研究発表としての演奏のみならず、聴衆の喜びや感動を呼び起こすような個性的なひとつの演奏団体としての成長も目指していきます。

## 学修成果

吹奏楽を経験することにより、大合奏上での様々な制約、約束ごとを理解することができます。

個人レッスンとは異なった面から音楽全体を把握する能力を養うことができます。

アンサンブルのマナーやルールを通じて、演奏家として、また社会人としてふさわしい“人”としてのありかたを身につけることができます。

## 授業展開と内容

## 第1回 前期授業オリエンテーション

・前期の授業説明（基本的に3つのグループに分けて合奏を進めます）や担当教員、各リーダーの紹介などを行います。履修人数が非常に多い授業のため、場合によっては時間と会場を分けて行います。

## 第2回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：譜読み

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：譜読み

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：譜読み

## 第3回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：楽曲分析と演奏へのフィードバック

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：楽曲分析と演奏へのフィードバック

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：楽曲分析と演奏へのフィードバック

## 第4回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：作品と作曲家、時代背景の研究

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：作品と作曲家、時代背景の研究

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：作品と作曲家、時代背景の研究

## 第5回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：ディナーミクとアゴーギクについての考察

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：ディナーミクとアゴーギクについての考察

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：ディナーミクとアゴーギクについての考察

## 第6回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：深い音楽表現と効果的な演奏研究

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：深い音楽表現と効果的な演奏研究

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：深い音楽表現と効果的な演奏研究

## 第7回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：まとめ

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：まとめ

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：第1部まとめ

## 第8回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：授業内発表

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：授業内発表

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：第2部まとめ

## 第9回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）

ウインド・シンフォニー→ユージーン・コーポロン教授による集中練習（月曜日～金曜日）（演奏会は6月4日土曜日）

## 第10回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）

## 第11回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究

## 第12回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：総練習（6月25日土曜日に特別練習あり、演奏会は6月26日日曜日）

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：総練習（6月25日土曜日に特別練習あり、演奏会は6月26日日曜日）

## 第13回 同属楽器アンサンブル特別授業（木管楽器）＊編成は変更の可能性があります。

## 第14回 同属楽器アンサンブル特別授業（金管打楽器）＊編成は変更の可能性があります。

第15回 同属楽器アンサンブル特別授業（プラスバンド）＊編成は変更の可能性があります。

第16回	後期授業オリエンテーション ・後期の授業説明（4つのグループに分けて合奏を進めます）を行います。履修人数が非常に多い授業のため、場合によっては時間と会場を分けて行います。
第17回	ベーシック・バンド→ユリホール（ウインドシンフォニーコース3年）指導実習演奏会リハーサル：譜読み①（前半部） ウインド・オーケストラ→ジーリオ（ウインドシンフォニーコース4年）指導実習演奏会リハーサル：譜読み①（前半部） ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：譜読み①（前半部）
第18回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：譜読み②（後半部） ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：譜読み②（後半部） ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：譜読み②（後半部）
第19回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習①（前半部） ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習①（前半部） ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：楽曲分析と演奏へのフィードバック
第20回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習②（後半部） ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習②（後半部） ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：作品と作曲家、時代背景の研究
第21回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習③（全体） ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習③（全体） ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：ディナーミックとアゴーギクについての考察
第22回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：指揮法レッスン ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：指揮法レッスン ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究（演奏会は11月6日）
第23回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：楽曲分析および作品と作曲家、時代背景の研究 ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：楽曲分析および作品と作曲家、時代背景の研究 吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：譜読み ウインド・シンフォニー→レコーディング実習：譜読み
第24回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：ディナーミックとアゴーギクについての考察 ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：ディナーミックとアゴーギクについての考察 吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：楽曲分析と演奏へのフィードバック ウインド・シンフォニー→レコーディング実習：深い音楽表現と効果的な演奏研究（収録日未定）
第25回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究 ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究 吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：作品と作曲家の時代背景の研究、ディナーミックとアゴーギクについての考察
第26回	ベーシック・バンド→総練習とウインドシンフォニーコース3年指導実習演奏会（ユリホール） ウインド・オーケストラ→総練習とウインドシンフォニーコース4年指導実習演奏会（ジーリオ） 吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究および総練習（12月3日土曜日に特別練習有り）（演奏会は12月4日）
第27回	ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：譜読み 同属楽器アンサンブル特別授業（木管楽器）＊編成は変更の可能性があります。
第28回	ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：バンドのみでの練習 同属楽器アンサンブル特別授業（金管打楽器）＊編成は変更の可能性があります。
第29回	ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：ソロ合わせ 同属楽器アンサンブル特別授業（プラスバンド）＊編成は変更の可能性があります。
第30回	ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：総練習と発表演奏

## 履修上の注意

細かな予定については楽器室前の掲示板上に随時発表するのでよく確認すること。合奏においては、どのパートが欠けても問題が生じてしまいます。自身の乗り番の時には欠席は認められません（やむを得ない場合は事前にインスペクターに所定の方法で届け出て下さい）。合奏には指示の書き込み用に2B以上の鉛筆を持参すること。授業で使用する楽譜についてはライブラリアンの指示に従って各自用意して下さい。合奏のためには椅子や譜面台の準備、片付けが必須です。消毒などが必要な場合もあるので授業時間の前後には積極的に作業に参加して下さい。

## 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

合奏は個人の譜読みの場ではありません。事前に楽譜が準備出来ている場合は、必ず個人レベルでの譜読みを済ませておくこと（曲数や難易度にもよりますが60分程度の予習復習を心掛けましょう）。また自分が演奏しない演奏会にも聴衆として積極的に参加し、良い学修の機会として下さい。また依頼等の状況によりDVD収録やCD録音など特別な実習を行うことがあります。

## 教科書・参考書

特になし

科目名－クラス名

## 合奏Ⅰ④

吹奏楽

## 曜日時限

火 3時限

火 4時限

金 4時限

金 5時限

## 担当教員

福本 信太郎

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	4～	通年	4	0	0	0	100	0	100

## 教育到達目標と概要

年間に数回の学内外演奏会及び発表会を行い、それぞれの公演に向けて個々及びバンド全体の演奏レベルを高めるとともに、楽員一同が集中して1つの楽曲をつくりあげていくときの厳しさ、喜びを体験します（全員が年間に2回以上テアトロ・ジューリオ・ショウワのステージを経験します）。特に定期公演においては授業の研究発表としての演奏のみならず、聴衆の喜びや感動を呼び起こすような個性的なひとつの演奏団体としての成長も目指していきます。

## 学修成果

吹奏楽を経験することにより、大合奏上での様々な制約、約束ごとを理解することができます。

個人レッスンとは異なった面から音楽全体を把握する能力を養うことができます。

アンサンブルのマナーやルールを通じて、演奏家として、また社会人としてふさわしい”人”としてのありかたを身につけることができます。

## 授業展開と内容

## 第1回 前期授業オリエンテーション

・前期の授業説明（基本的に3つのグループに分けて合奏を進めます）や担当教員、各リーダーの紹介などを行います。履修人数が非常に多い授業のため、場合によっては時間と会場を分けて行います。

## 第2回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：譜読み

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：譜読み

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：譜読み

## 第3回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：楽曲分析と演奏へのフィードバック

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：楽曲分析と演奏へのフィードバック

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：楽曲分析と演奏へのフィードバック

## 第4回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：作品と作曲家、時代背景の研究

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：作品と作曲家、時代背景の研究

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：作品と作曲家、時代背景の研究

## 第5回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：ディナーミクとアゴーギクについての考察

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：ディナーミクとアゴーギクについての考察

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：ディナーミクとアゴーギクについての考察

## 第6回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：深い音楽表現と効果的な演奏研究

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：深い音楽表現と効果的な演奏研究

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：深い音楽表現と効果的な演奏研究

## 第7回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：まとめ

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：まとめ

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：第1部まとめ

## 第8回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：授業内発表

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：授業内発表

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：第2部まとめ

## 第9回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）

ウインド・シンフォニー→ユージーン・コーポロン教授による集中練習（月曜日～金曜日）（演奏会は6月4日土曜日）

## 第10回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）

## 第11回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究

## 第12回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：総練習（6月25日土曜日に特別練習あり、演奏会は6月26日日曜日）

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：総練習（6月25日土曜日に特別練習あり、演奏会は6月26日日曜日）

## 第13回 同属楽器アンサンブル特別授業（木管楽器）＊編成は変更の可能性があります。

## 第14回 同属楽器アンサンブル特別授業（金管打楽器）＊編成は変更の可能性があります。



第15回 同属楽器アンサンブル特別授業（プラスバンド）＊編成は変更の可能性があります。

第16回	後期授業オリエンテーション ・後期の授業説明（4つのグループに分けて合奏を進めます）を行います。履修人数が非常に多い授業のため、場合によっては時間と会場を分けて行います。
第17回	ベーシック・バンド→ユリホール（ウインドシンフォニーコース3年）指導実習演奏会リハーサル：譜読み①（前半部） ウインド・オーケストラ→ジーリオ（ウインドシンフォニーコース4年）指導実習演奏会リハーサル：譜読み①（前半部） ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：譜読み①（前半部）
第18回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：譜読み②（後半部） ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：譜読み②（後半部） ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：譜読み②（後半部）
第19回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習①（前半部） ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習①（前半部） ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：楽曲分析と演奏へのフィードバック
第20回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習②（後半部） ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習②（後半部） ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：作品と作曲家、時代背景の研究
第21回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習③（全体） ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習③（全体） ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：ディナーミックとアゴーギクについての考察
第22回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：指揮法レッスン ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：指揮法レッスン ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究（演奏会は11月6日）
第23回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：楽曲分析および作品と作曲家、時代背景の研究 ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：楽曲分析および作品と作曲家、時代背景の研究 吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：譜読み ウインド・シンフォニー→レコーディング実習：譜読み
第24回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：ディナーミックとアゴーギクについての考察 ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：ディナーミックとアゴーギクについての考察 吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：楽曲分析と演奏へのフィードバック ウインド・シンフォニー→レコーディング実習：深い音楽表現と効果的な演奏研究（収録日未定）
第25回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究 ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究 吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：作品と作曲家の時代背景の研究、ディナーミックとアゴーギクについての考察
第26回	ベーシック・バンド→総練習とウインドシンフォニーコース3年指導実習演奏会（ユリホール） ウインド・オーケストラ→総練習とウインドシンフォニーコース4年指導実習演奏会（ジーリオ） 吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究および総練習（12月3日土曜日に特別練習有り）（演奏会は12月4日）
第27回	ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：譜読み 同属楽器アンサンブル特別授業（木管楽器）＊編成は変更の可能性があります。
第28回	ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：バンドのみでの練習 同属楽器アンサンブル特別授業（金管打楽器）＊編成は変更の可能性があります。
第29回	ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：ソロ合わせ 同属楽器アンサンブル特別授業（プラスバンド）＊編成は変更の可能性があります。
第30回	ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：総練習と発表演奏

## 履修上の注意

細かな予定については楽器室前の掲示板上に随時発表するのでよく確認すること。合奏においては、どのパートが欠けても問題が生じてしまいます。自身の乗り番の時には欠席は認められません（やむを得ない場合は事前にインスペクターに所定の方法で届け出て下さい）。合奏には指示の書き込み用に2B以上の鉛筆を持参すること。授業で使用する楽譜についてはライブラリアンの指示に従って各自用意して下さい。合奏のためには椅子や譜面台の準備、片付けが必須です。消毒などが必要な場合もあるので授業時間の前後には積極的に作業に参加して下さい。

## 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

合奏は個人の譜読みの場ではありません。事前に楽譜が準備出来ている場合は、必ず個人レベルでの譜読みを済ませておくこと（曲数や難易度にもよりますが60分程度の予習復習を心掛けましょう）。また自分が演奏しない演奏会にも聴衆として積極的に参加し、良い学修の機会として下さい。また依頼等の状況によりDVD収録やCD録音など特別な実習を行うことがあります。

## 教科書・参考書

特になし

科目名－クラス名

## 合奏Ⅲ①

吹奏楽

## 曜日時限

火 3時限

火 4時限

金 4時限

金 5時限

## 担当教員

福本 信太郎

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	1～	通年	2	0	0	0	100	0	100

## 教育到達目標と概要

年間に数回の学内外演奏会及び発表会を行い、それぞれの公演に向けて個々及びバンド全体の演奏レベルを高めるとともに、楽員一同が集中して1つの楽曲をつくりあげていくときの厳しさ、喜びを体験します（全員が年間に2回以上テアトロ・ジューリオ・ショウワのステージを経験します）。特に定期公演においては授業の研究発表としての演奏のみならず、聴衆の喜びや感動を呼び起こすような個性的なひとつの演奏団体としての成長も目指していきます。

## 学修成果

吹奏楽を経験することにより、大合奏上での様々な制約、約束ごとを理解することができます。

個人レッスンとは異なった面から音楽全体を把握する能力を養うことができます。

アンサンブルのマナーやルールを通じて、演奏家として、また社会人としてふさわしい”人”としてのありかたを身につけることができます。

## 授業展開と内容

- 第1回 前期授業オリエンテーション  
・前期の授業説明（基本的に3つのグループに分けて合奏を進めます）や担当教員、各リーダーの紹介などを行います。履修人数が非常に多い授業のため、場合によっては時間と会場を分けて行います。
- 第2回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：譜読み  
ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：譜読み  
ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：譜読み
- 第3回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：楽曲分析と演奏へのフィードバック  
ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：楽曲分析と演奏へのフィードバック  
ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：楽曲分析と演奏へのフィードバック
- 第4回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：作品と作曲家、時代背景の研究  
ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：作品と作曲家、時代背景の研究  
ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：作品と作曲家、時代背景の研究
- 第5回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：ディナーミクとアゴーギクについての考察  
ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：ディナーミクとアゴーギクについての考察  
ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：ディナーミクとアゴーギクについての考察
- 第6回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：深い音楽表現と効果的な演奏研究  
ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：深い音楽表現と効果的な演奏研究  
ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：深い音楽表現と効果的な演奏研究
- 第7回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：まとめ  
ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：まとめ  
ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：第1部まとめ
- 第8回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：授業内発表  
ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：授業内発表  
ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：第2部まとめ
- 第9回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）  
ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）  
ウインド・シンフォニー→ユージーン・コーポロン教授による集中練習（月曜日～金曜日）（演奏会は6月4日土曜日）
- 第10回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）  
ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）
- 第11回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究  
ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究
- 第12回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：総練習（6月25日土曜日に特別練習あり、演奏会は6月26日日曜日）  
ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：総練習（6月25日土曜日に特別練習あり、演奏会は6月26日日曜日）
- 第13回 同属楽器アンサンブル特別授業（木管楽器）＊編成は変更の可能性があります。
- 第14回 同属楽器アンサンブル特別授業（金管打楽器）＊編成は変更の可能性があります。

第15回 同属楽器アンサンブル特別授業（プラスバンド）＊編成は変更の可能性があります。

第16回 後期授業オリエンテーション  
・後期の授業説明（4つのグループに分けて合奏を進めます）を行います。履修人数が非常に多い授業のため、場合によっては時間と会場を分けて行います。

第17回 ベーシック・バンド→ユリホール（ウインドシンフォニーコース3年）指導実習演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）  
ウインド・オーケストラ→ジューリオ（ウインドシンフォニーコース4年）指導実習演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）  
ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：譜読み①（前半部）

第18回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）  
ウインド・オーケストラ→ジューリオ指導実習演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）  
ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：譜読み②（後半部）

第19回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習①（前半部）  
ウインド・オーケストラ→ジューリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習①（前半部）  
ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：楽曲分析と演奏へのフィードバック

第20回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習②（後半部）  
ウインド・オーケストラ→ジューリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習②（後半部）  
ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：作品と作曲家、時代背景の研究

第21回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習③（全体）  
ウインド・オーケストラ→ジューリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習③（全体）  
ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：ディナーミックとアゴーギクについての考察

第22回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：指揮法レッスン  
ウインド・オーケストラ→ジューリオ指導実習演奏会リハーサル：指揮法レッスン  
ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究（演奏会は11月6日）

第23回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：楽曲分析および作品と作曲家、時代背景の研究  
ウインド・オーケストラ→ジューリオ指導実習演奏会リハーサル：楽曲分析および作品と作曲家、時代背景の研究  
吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：譜読み  
ウインド・シンフォニー→レコーディング実習：譜読み

第24回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：ディナーミックとアゴーギクについての考察  
ウインド・オーケストラ→ジューリオ指導実習演奏会リハーサル：ディナーミックとアゴーギクについての考察  
吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：楽曲分析と演奏へのフィードバック  
ウインド・シンフォニー→レコーディング実習：深い音楽表現と効果的な演奏研究（収録日未定）

第25回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究  
ウインド・オーケストラ→ジューリオ指導実習演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究  
吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：作品と作曲家の時代背景の研究、ディナーミックとアゴーギクについての考察

第26回 ベーシック・バンド→総練習とウインドシンフォニーコース3年指導実習演奏会（ユリホール）  
ウインド・オーケストラ→総練習とウインドシンフォニーコース4年指導実習演奏会（ジューリオ）  
吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究および総練習（12月3日土曜日に特別練習有り）（演奏会は12月4日）

第27回 ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：譜読み  
同属楽器アンサンブル特別授業（木管楽器）＊編成は変更の可能性があります。

第28回 ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：バンドのみでの練習  
同属楽器アンサンブル特別授業（金管打楽器）＊編成は変更の可能性があります。

第29回 ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：ソロ合わせ  
同属楽器アンサンブル特別授業（プラスバンド）＊編成は変更の可能性があります。

第30回 ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：総練習と発表演奏

## 履修上の注意

細かな予定については楽器室前の掲示板上に随時発表するのでよく確認すること。合奏においては、どのパートが欠けても問題が生じてしまいます。自身の乗り番の時には欠席は認められません（やむを得ない場合は事前にインスペクターに所定の方法で届け出て下さい）。合奏には指示の書き込み用に2B以上の鉛筆を持参すること。授業で使用する楽譜についてはライブラリアンの指示に従って各自用意して下さい。合奏のためには椅子や譜面台の準備、片付けが必須です。消毒などが必要な場合もあるので授業時間の前後には積極的に作業に参加して下さい。

## 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

合奏は個人の譜読みのみではありません。事前に楽譜が準備出来ている場合は、必ず個人レベルでの譜読みを済ませておくこと（曲数や難易度にもよりますが60分程度の予習復習を心掛けましょう）。また自分が演奏しない演奏会にも聴衆として積極的に参加し、良い学修の機会として下さい。また依頼等の状況によりDVD収録やCD録音など特別な実習を行うことがあります。

## 教科書・参考書

特になし

科目名－クラス名

## 合奏Ⅲ①

S x

## 曜日時限

金 2時限

水 3時限

## 担当教員

福本 信太郎

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	1～	通年	2		0	0	0	100	0	100

## 教育到達目標と概要

サクソフォーンと同族楽器による合奏は世界各国で盛んに行われており、時には室内乐的繊細さをもった響きを、また時にはシンフォニー・オーケストラ並の迫力と表現力をもつ演奏形態として多くの可能性を持っていると考えられている。本学では長年この編成の演奏研究に取り組んできているが、この形態を系統立てて学ぶため、サクソフォーンの新入生を対象に本講座を開講している。

## 学修成果

合奏実習を通じてアンサンブルの基礎を学び、また個人レッスンだけでは得られない「人とあわせること」における表現力の幅の拡充ができる。アンサンブルを重ねる中で、ソルフェージュ能力（特に音程やリズムについて）を高める事ができる。複数の教員が授業を進める事で多くのレパートリーに触れ、様々な様式（スタイル）について学修する事ができる。（月曜日：彦坂教授・榮村講師・神保講師、水曜日：彦坂教授・福本教授・大森講師、金曜日：福本教授・野原講師・神保講師）

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（パート決め、曲決め等）
第2回	チャイコフスキー：「弦楽セレナーデ」 第1楽章 等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
第3回	チャイコフスキー：「弦楽セレナーデ」 第1楽章 等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
第4回	ドビュッシー：「小組曲」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
第5回	ドビュッシー：「小組曲」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
第6回	グリーグ：「二つの悲しき旋律」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
第7回	グリーグ：「二つの悲しき旋律」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
第8回	グリーグ：「二つの悲しき旋律」等の合奏：作品や作曲家の時代背景の考察と演奏表現の研究
第9回	ウィーラン：「リヴァーダンス」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
第10回	ウィーラン：「リヴァーダンス」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
第11回	ウィーラン：「リヴァーダンス」等の合奏：作品や作曲家の時代背景の考察と演奏表現の研究
第12回	バルトーク：「ルーマニア民族舞曲」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
第13回	バルトーク：「ルーマニア民族舞曲」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
第14回	バルトーク：「ルーマニア民族舞曲」等の合奏：作品や作曲家の時代背景の考察と演奏表現の研究
第15回	前期のまとめ
第16回	後期オリエンテーション（パート決め、曲決め等）
第17回	ビゼー：「カルメン」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
第18回	ビゼー：「カルメン」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
第19回	ショスタコーヴィチ：「祝典序曲」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
第20回	ショスタコーヴィチ：「祝典序曲」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
第21回	ミヨー：「フランス組曲」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
第22回	ミヨー：「フランス組曲」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
第23回	リムスキー＝コルサコフ：「熊蜂の飛行」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
第24回	リムスキー＝コルサコフ：「熊蜂の飛行」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
第25回	吉野由紀子：「アイリッシュダンス」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
第26回	吉野由紀子：「アイリッシュダンス」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
第27回	スーク：「弦楽セレナーデ」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
第28回	スーク：「弦楽セレナーデ」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
第29回	スーク：「弦楽セレナーデ」等の合奏：作品や作曲家の時代背景の考察と演奏表現の研究
第30回	1年のまとめ

**履修上の注意**

合奏においては、どのパートが欠けても問題が生じてしまう。自身の乗り番の時に欠席することが無いようにすること。合奏には指示の書き込み用に鉛筆を持参する。授業で使用する楽譜については教員の指示に従って各自用意すること。また楽譜は著作物であるため、その取り扱いについては十分に注意すること。合奏のためには椅子や譜面台の準備が必須である。授業の前後には積極的にこれらの作業に関わることを。大学所有の楽器を借りる場合は、その取り扱いに十分に注意すること。使用にあたっては消毒作業などが必要になるので時間に余裕を持って準備すること。

**授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法**

合奏は譜読みの場ではない。事前に個人レベルでの譜読みをすませておくこと。（曲の難易度にもよるが、おおよそ60分程度）また合奏後にも次回授業に向けて復習を兼ねた自主練習を行うこと（おおよそ60分程度）

**教科書・参考書**

適宜配付する

科目名－クラス名

## 合奏Ⅲ①

吹奏楽

## 曜日時限

火 3時限

火 4時限

金 4時限

金 5時限

## 担当教員

福本 信太郎

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	1～	通年	2	評価割合	0	0	0	100	0	100

## 教育到達目標と概要

年間に数回の学内外演奏会及び発表会を行い、それぞれの公演に向けて個々及びバンド全体の演奏レベルを高めるとともに、楽員一同が集中して1つの楽曲をつくりあげていくときの厳しさ、喜びを体験します（全員が年間に2回以上テアトロ・ジューリオ・ショウワのステージを経験します）。特に定期公演においては授業の研究発表としての演奏のみならず、聴衆の喜びや感動を呼び起こすような個性的なひとつの演奏団体としての成長も目指していきます。

## 学修成果

吹奏楽を経験することにより、大合奏上での様々な制約、約束ごとを理解することができます。

個人レッスンとは異なった面から音楽全体を把握する能力を養うことができます。

アンサンブルのマナーやルールを通じて、演奏家として、また社会人としてふさわしい”人”としてのありかたを身につけることができます。

## 授業展開と内容

## 第1回 前期授業オリエンテーション

・前期の授業説明（基本的に3つのグループに分けて合奏を進めます）や担当教員、各リーダーの紹介などを行います。履修人数が非常に多い授業のため、場合によっては時間と会場を分けて行います。

## 第2回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：譜読み

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：譜読み

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：譜読み

## 第3回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：楽曲分析と演奏へのフィードバック

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：楽曲分析と演奏へのフィードバック

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：楽曲分析と演奏へのフィードバック

## 第4回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：作品と作曲家、時代背景の研究

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：作品と作曲家、時代背景の研究

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：作品と作曲家、時代背景の研究

## 第5回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：ディナーミクとアゴーギクについての考察

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：ディナーミクとアゴーギクについての考察

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：ディナーミクとアゴーギクについての考察

## 第6回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：深い音楽表現と効果的な演奏研究

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：深い音楽表現と効果的な演奏研究

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：深い音楽表現と効果的な演奏研究

## 第7回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：まとめ

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：まとめ

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：第1部まとめ

## 第8回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：授業内発表

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：授業内発表

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：第2部まとめ

## 第9回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）

ウインド・シンフォニー→ユージーン・コーポロン教授による集中練習（月曜日～金曜日）（演奏会は6月4日土曜日）

## 第10回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）

## 第11回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究

## 第12回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：総練習（6月25日土曜日に特別練習あり、演奏会は6月26日日曜日）

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：総練習（6月25日土曜日に特別練習あり、演奏会は6月26日日曜日）

## 第13回 同属楽器アンサンブル特別授業（木管楽器）＊編成は変更の可能性があります。

## 第14回 同属楽器アンサンブル特別授業（金管打楽器）＊編成は変更の可能性があります。

第15回 同属楽器アンサンブル特別授業（プラスバンド）＊編成は変更の可能性があります。

第16回 後期授業オリエンテーション  
・後期の授業説明（4つのグループに分けて合奏を進めます）を行います。履修人数が非常に多い授業のため、場合によっては時間と会場を分けて行います。

第17回 ベーシック・バンド→ユリホール（ウインドシンフォニーコース3年）指導実習演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ（ウインドシンフォニーコース4年）指導実習演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）  
ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：譜読み①（前半部）

第18回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）  
ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：譜読み②（後半部）

第19回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習①（前半部）  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習①（前半部）  
ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：楽曲分析と演奏へのフィードバック

第20回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習②（後半部）  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習②（後半部）  
ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：作品と作曲家、時代背景の研究

第21回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習③（全体）  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習③（全体）  
ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：ディナーミックとアゴーギクについての考察

第22回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：指揮法レッスン  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：指揮法レッスン  
ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究（演奏会は11月6日）

第23回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：楽曲分析および作品と作曲家、時代背景の研究  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：楽曲分析および作品と作曲家、時代背景の研究  
吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：譜読み  
ウインド・シンフォニー→レコーディング実習：譜読み

第24回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：ディナーミックとアゴーギクについての考察  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：ディナーミックとアゴーギクについての考察  
吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：楽曲分析と演奏へのフィードバック  
ウインド・シンフォニー→レコーディング実習：深い音楽表現と効果的な演奏研究（収録日未定）

第25回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究  
吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：作品と作曲家の時代背景の研究、ディナーミックとアゴーギクについての考察

第26回 ベーシック・バンド→総練習とウインドシンフォニーコース3年指導実習演奏会（ユリホール）  
ウインド・オーケストラ→総練習とウインドシンフォニーコース4年指導実習演奏会（ジーリオ）  
吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究および総練習（12月3日土曜日に特別練習有り）（演奏会は12月4日）

第27回 ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：譜読み  
同属楽器アンサンブル特別授業（木管楽器）＊編成は変更の可能性があります。

第28回 ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：バンドのみでの練習  
同属楽器アンサンブル特別授業（金管打楽器）＊編成は変更の可能性があります。

第29回 ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：ソロ合わせ  
同属楽器アンサンブル特別授業（プラスバンド）＊編成は変更の可能性があります。

第30回 ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：総練習と発表演奏

### 履修上の注意

細かな予定については楽器室前の掲示板上に随時発表するのでよく確認すること。合奏においては、どのパートが欠けても問題が生じてしまいます。自身の乗り番の時には欠席は認められません（やむを得ない場合は事前にインスペクターに所定の方法で届け出て下さい）。合奏には指示の書き込み用に2B以上の鉛筆を持参すること。授業で使用する楽譜についてはライブラリアンの指示に従って各自用意して下さい。合奏のためには椅子や譜面台の準備、片付けが必須です。消毒などが必要な場合もあるので授業時間の前後には積極的に作業に参加して下さい。

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

合奏は個人の譜読みの場ではありません。事前に楽譜が準備出来ている場合は、必ず個人レベルでの譜読みを済ませておくこと（曲数や難易度にもよりますが60分程度の予習復習を心掛けましょう）。また自分が演奏しない演奏会にも聴衆として積極的に参加し、良い学修の機会として下さい。また依頼等の状況によりDVD収録やCD録音など特別な実習を行うことがあります。

### 教科書・参考書

特になし

科目名－クラス名

**合奏Ⅲ①**

S x

曜日時限

金 2時限

水 3時限

担当教員

福本 信太郎

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	1～	通年	2		0	0	0	100	0	100

教育到達目標と概要

サクソフォーンと同族楽器による合奏は世界各国で盛んに行われており、時には室内乐的繊細さをもった響きを、また時にはシンフォニー・オーケストラ並の迫力と表現力をもつ演奏形態として多くの可能性を持っていると考えられている。本学では長年この編成の演奏研究に取り組んできているが、この形態を系統立てて学ぶため、サクソフォーンの新入生を対象に本講座を開講している。

学修成果

合奏実習を通じてアンサンブルの基礎を学び、また個人レッスンだけでは得られない「人とあわせること」における表現力の幅の拡充ができる。アンサンブルを重ねる中で、ソルフェージュ能力（特に音程やリズムについて）を高める事ができる。複数の教員が授業を進める事で多くのレパートリーに触れ、様々な様式（スタイル）について学修する事ができる。（月曜日：彦坂教授・榮村講師・神保講師、水曜日：彦坂教授・福本教授・大森講師、金曜日：福本教授・野原講師・神保講師）

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（パート決め、曲決め等）
- 第2回 チャイコフスキー：「弦楽セレナーデ」 第1楽章 等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
- 第3回 チャイコフスキー：「弦楽セレナーデ」 第1楽章 等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
- 第4回 ドビュッシー：「小組曲」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
- 第5回 ドビュッシー：「小組曲」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
- 第6回 グリーグ：「二つの悲しき旋律」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
- 第7回 グリーグ：「二つの悲しき旋律」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
- 第8回 グリーグ：「二つの悲しき旋律」等の合奏：作品や作曲家の時代背景の考察と演奏表現の研究
- 第9回 ウィーラン：「リヴァーダンス」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
- 第10回 ウィーラン：「リヴァーダンス」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
- 第11回 ウィーラン：「リヴァーダンス」等の合奏：作品や作曲家の時代背景の考察と演奏表現の研究
- 第12回 バルトーク：「ルーマニア民族舞曲」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
- 第13回 バルトーク：「ルーマニア民族舞曲」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
- 第14回 バルトーク：「ルーマニア民族舞曲」等の合奏：作品や作曲家の時代背景の考察と演奏表現の研究
- 第15回 前期のまとめ
- 第16回 後期オリエンテーション（パート決め、曲決め等）
- 第17回 ビゼー：「カルメン」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
- 第18回 ビゼー：「カルメン」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
- 第19回 ショスタコーヴィチ：「祝典序曲」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
- 第20回 ショスタコーヴィチ：「祝典序曲」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
- 第21回 ミヨー：「フランス組曲」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
- 第22回 ミヨー：「フランス組曲」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
- 第23回 リムスキー＝コルサコフ：「熊蜂の飛行」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
- 第24回 リムスキー＝コルサコフ：「熊蜂の飛行」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
- 第25回 吉野由紀子：「アイリッシュダンス」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
- 第26回 吉野由紀子：「アイリッシュダンス」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
- 第27回 スーク：「弦楽セレナーデ」等の合奏：基礎的な練習及び楽曲分析
- 第28回 スーク：「弦楽セレナーデ」等の合奏：深い表現力を追求した演奏研究
- 第29回 スーク：「弦楽セレナーデ」等の合奏：作品や作曲家の時代背景の考察と演奏表現の研究
- 第30回 1年のまとめ



#### 履修上の注意

合奏においては、どのパートが欠けても問題が生じてしまう。自身の乗り番の時に欠席することが無いようにすること。合奏には指示の書き込み用に鉛筆を持参する。授業で使用する楽譜については教員の指示に従って各自用意すること。また楽譜は著作物であるため、その取り扱いについては十分に注意すること。合奏のためには椅子や譜面台の準備が必須である。授業の前後には積極的にこれらの作業に関わることを。大学所有の楽器を借りる場合は、その取り扱いに十分に注意すること。使用にあたっては消毒作業などが必要になるので時間に余裕を持って準備す

#### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

合奏は譜読みの場ではない。事前に個人レベルでの譜読みをすませておくこと。(曲の難易度にもよるが、おおそ60分程度) また合奏後にも次回授業に向けて復習を兼ねた自主練習を行うこと (おおそ60分程度)

#### 教科書・参考書

適宜配付する

科目名－クラス名

## 合奏Ⅲ③

吹奏楽

## 曜日時限

火 3時限

火 4時限

金 4時限

金 5時限

## 担当教員

福本 信太郎

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	3～	通年	2	0	0	0	100	0	100

## 教育到達目標と概要

年間に数回の学内外演奏会及び発表会を行い、それぞれの公演に向けて個々及びバンド全体の演奏レベルを高めるとともに、楽員一同が集中して1つの楽曲をつくりあげていくときの厳しさ、喜びを体験します（全員が年間に2回以上テアトロ・ジューリオ・ショウワのステージを経験します）。特に定期公演においては授業の研究発表としての演奏のみならず、聴衆の喜びや感動を呼び起こすような個性的なひとつの演奏団体としての成長も目指していきます。

## 学修成果

吹奏楽を経験することにより、大合奏上での様々な制約、約束ごとを理解することができます。

個人レッスンとは異なった面から音楽全体を把握する能力を養うことができます。

アンサンブルのマナーやルールを通じて、演奏家として、また社会人としてふさわしい”人”としてのありかたを身につけることができます。

## 授業展開と内容

## 第1回 前期授業オリエンテーション

・前期の授業説明（基本的に3つのグループに分けて合奏を進めます）や担当教員、各リーダーの紹介などを行います。履修人数が非常に多い授業のため、場合によっては時間と会場を分けて行います。

## 第2回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：譜読み

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：譜読み

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：譜読み

## 第3回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：楽曲分析と演奏へのフィードバック

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：楽曲分析と演奏へのフィードバック

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：楽曲分析と演奏へのフィードバック

## 第4回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：作品と作曲家、時代背景の研究

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：作品と作曲家、時代背景の研究

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：作品と作曲家、時代背景の研究

## 第5回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：ディナーミクとアゴーギクについての考察

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：ディナーミクとアゴーギクについての考察

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：ディナーミクとアゴーギクについての考察

## 第6回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：深い音楽表現と効果的な演奏研究

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：深い音楽表現と効果的な演奏研究

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：深い音楽表現と効果的な演奏研究

## 第7回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：まとめ

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：まとめ

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：第1部まとめ

## 第8回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：授業内発表

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：授業内発表

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：第2部まとめ

## 第9回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）

ウインド・シンフォニー→ユージーン・コーポロン教授による集中練習（月曜日～金曜日）（演奏会は6月4日土曜日）

## 第10回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）

## 第11回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究

## 第12回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：総練習（6月25日土曜日に特別練習あり、演奏会は6月26日日曜日）

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：総練習（6月25日土曜日に特別練習あり、演奏会は6月26日日曜日）

## 第13回 同属楽器アンサンブル特別授業（木管楽器）＊編成は変更の可能性があります。

## 第14回 同属楽器アンサンブル特別授業（金管打楽器）＊編成は変更の可能性があります。

第15回 同属楽器アンサンブル特別授業（プラスバンド）＊編成は変更の可能性があります。

第16回	後期授業オリエンテーション ・後期の授業説明（4つのグループに分けて合奏を進めます）を行います。履修人数が非常に多い授業のため、場合によっては時間と会場を分けて行います。
第17回	ベーシック・バンド→ユリホール（ウインドシンフォニーコース3年）指導実習演奏会リハーサル：譜読み①（前半部） ウインド・オーケストラ→ジーリオ（ウインドシンフォニーコース4年）指導実習演奏会リハーサル：譜読み①（前半部） ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：譜読み①（前半部）
第18回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：譜読み②（後半部） ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：譜読み②（後半部） ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：譜読み②（後半部）
第19回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習①（前半部） ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習①（前半部） ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：楽曲分析と演奏へのフィードバック
第20回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習②（後半部） ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習②（後半部） ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：作品と作曲家、時代背景の研究
第21回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習③（全体） ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習③（全体） ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：ディナーミックとアゴーギクについての考察
第22回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：指揮法レッスン ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：指揮法レッスン ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究（演奏会は11月6日）
第23回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：楽曲分析および作品と作曲家、時代背景の研究 ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：楽曲分析および作品と作曲家、時代背景の研究 吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：譜読み ウインド・シンフォニー→レコーディング実習：譜読み
第24回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：ディナーミックとアゴーギクについての考察 ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：ディナーミックとアゴーギクについての考察 吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：楽曲分析と演奏へのフィードバック ウインド・シンフォニー→レコーディング実習：深い音楽表現と効果的な演奏研究（収録日未定）
第25回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究 ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究 吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：作品と作曲家の時代背景の研究、ディナーミックとアゴーギクについての考察
第26回	ベーシック・バンド→総練習とウインドシンフォニーコース3年指導実習演奏会（ユリホール） ウインド・オーケストラ→総練習とウインドシンフォニーコース4年指導実習演奏会（ジーリオ） 吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究および総練習（12月3日土曜日に特別練習有り）（演奏会は12月4日）
第27回	ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：譜読み 同属楽器アンサンブル特別授業（木管楽器）＊編成は変更の可能性があります。
第28回	ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：バンドのみでの練習 同属楽器アンサンブル特別授業（金管打楽器）＊編成は変更の可能性があります。
第29回	ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：ソロ合わせ 同属楽器アンサンブル特別授業（プラスバンド）＊編成は変更の可能性があります。
第30回	ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：総練習と発表演奏

## 履修上の注意

細かな予定については楽器室前の掲示板上に随時発表するのでよく確認すること。合奏においては、どのパートが欠けても問題が生じてしまいます。自身の乗り番の時には欠席は認められません（やむを得ない場合は事前にインスペクターに所定の方法で届け出て下さい）。合奏には指示の書き込み用に2B以上の鉛筆を持参すること。授業で使用する楽譜についてはライブラリアンの指示に従って各自用意して下さい。合奏のためには椅子や譜面台の準備、片付けが必須です。消毒などが必要な場合もあるので授業時間の前後には積極的に作業に参加して下さい。

## 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

合奏は個人の譜読みの場ではありません。事前に楽譜が準備出来ている場合は、必ず個人レベルでの譜読みを済ませておくこと（曲数や難易度にもよりますが60分程度の予習復習を心掛けましょう）。また自分が演奏しない演奏会にも聴衆として積極的に参加し、良い学修の機会として下さい。また依頼等の状況によりDVD収録やCD録音など特別な実習を行うことがあります。

## 教科書・参考書

特になし

科目名-クラス名

## 合奏特別演習①

吹奏楽

## 曜日時限

火 3時限

火 4時限

金 4時限

金 5時限

## 担当教員

福本 信太郎

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
演習	1～	通年	2	評価割合	0	0	0	100	0	100

## 教育到達目標と概要

年間に数回の学内外演奏会及び発表会を行い、それぞれの公演に向けて個々及びバンド全体の演奏レベルを高めるとともに、楽員一同が集中して1つの楽曲をつくりあげていくときの厳しさ、喜びを体験します（全員が年間に2回以上テアトロ・ジューリオ・ショウワのステージを経験します）。特に定期公演においては授業の研究発表としての演奏のみならず、聴衆の喜びや感動を呼び起こすような個性的なひとつの演奏団体としての成長も目指していきます。

## 学修成果

吹奏楽を経験することにより、大合奏上での様々な制約、約束ごとを理解することができます。

個人レッスンとは異なった面から音楽全体を把握する能力を養うことができます。

アンサンブルのマナーやルールを通じて、演奏家として、また社会人としてふさわしい"人"としてのありかたを身につけることができます。

## 授業展開と内容

## 第1回 前期授業オリエンテーション

・前期の授業説明（基本的に3つのグループに分けて合奏を進めます）や担当教員、各リーダーの紹介などを行います。履修人数が非常に多い授業のため、場合によっては時間と会場を分けて行います。

## 第2回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：譜読み

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：譜読み

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：譜読み

## 第3回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：楽曲分析と演奏へのフィードバック

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：楽曲分析と演奏へのフィードバック

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：楽曲分析と演奏へのフィードバック

## 第4回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：作品と作曲家、時代背景の研究

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：作品と作曲家、時代背景の研究

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：作品と作曲家、時代背景の研究

## 第5回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：ディナーミクとアゴーギクについての考察

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：ディナーミクとアゴーギクについての考察

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：ディナーミクとアゴーギクについての考察

## 第6回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：深い音楽表現と効果的な演奏研究

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：深い音楽表現と効果的な演奏研究

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：深い音楽表現と効果的な演奏研究

## 第7回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：まとめ

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：まとめ

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：第1部まとめ

## 第8回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：授業内発表

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：授業内発表

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：第2部まとめ

## 第9回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）

ウインド・シンフォニー→ユージーン・コーポロン教授による集中練習（月曜日～金曜日）（演奏会は6月4日土曜日）

## 第10回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）

## 第11回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究

## 第12回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：総練習（6月25日土曜日に特別練習あり、演奏会は6月26日日曜日）

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：総練習（6月25日土曜日に特別練習あり、演奏会は6月26日日曜日）

## 第13回 同属楽器アンサンブル特別授業（木管楽器）＊編成は変更の可能性があります。

## 第14回 同属楽器アンサンブル特別授業（金管打楽器）＊編成は変更の可能性があります。

第15回 同属楽器アンサンブル特別授業（プラスバンド）＊編成は変更の可能性があります。

第16回 後期授業オリエンテーション  
・後期の授業説明（4つのグループに分けて合奏を進めます）を行います。履修人数が非常に多い授業のため、場合によっては時間と会場を分けて行います。

第17回 ベーシック・バンド→ユリホール（ウインドシンフォニーコース3年）指導実習演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ（ウインドシンフォニーコース4年）指導実習演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）  
ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：譜読み①（前半部）

第18回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）  
ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：譜読み②（後半部）

第19回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習①（前半部）  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習①（前半部）  
ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：楽曲分析と演奏へのフィードバック

第20回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習②（後半部）  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習②（後半部）  
ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：作品と作曲家、時代背景の研究

第21回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習③（全体）  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習③（全体）  
ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：ディナーミックとアゴーギクについての考察

第22回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：指揮法レッスン  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：指揮法レッスン  
ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究（演奏会は11月6日）

第23回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：楽曲分析および作品と作曲家、時代背景の研究  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：楽曲分析および作品と作曲家、時代背景の研究  
吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：譜読み  
ウインド・シンフォニー→レコーディング実習：譜読み

第24回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：ディナーミックとアゴーギクについての考察  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：ディナーミックとアゴーギクについての考察  
吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：楽曲分析と演奏へのフィードバック  
ウインド・シンフォニー→レコーディング実習：深い音楽表現と効果的な演奏研究（収録日未定）

第25回 ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究  
ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究  
吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：作品と作曲家の時代背景の研究、ディナーミックとアゴーギクについての考察

第26回 ベーシック・バンド→総練習とウインドシンフォニーコース3年指導実習演奏会（ユリホール）  
ウインド・オーケストラ→総練習とウインドシンフォニーコース4年指導実習演奏会（ジーリオ）  
吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究および総練習（12月3日土曜日に特別練習有り）（演奏会は12月4日）

第27回 ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：譜読み  
同属楽器アンサンブル特別授業（木管楽器）＊編成は変更の可能性があります。

第28回 ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：バンドのみでの練習  
同属楽器アンサンブル特別授業（金管打楽器）＊編成は変更の可能性があります。

第29回 ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：ソロ合わせ  
同属楽器アンサンブル特別授業（プラスバンド）＊編成は変更の可能性があります。

第30回 ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：総練習と発表演奏

## 履修上の注意

細かな予定については楽器室前の掲示板上に随時発表するのでよく確認すること。合奏においては、どのパートが欠けても問題が生じてしまいます。自身の乗り番の時には欠席は認められません（やむを得ない場合は事前にインスペクターに所定の方法で届け出て下さい）。合奏には指示の書き込み用に2B以上の鉛筆を持参すること。授業で使用する楽譜についてはライブラリアンの指示に従って各自用意して下さい。合奏のためには椅子や譜面台の準備、片付けが必須です。消毒などが必要な場合もあるので授業時間の前後には積極的に作業に参加して下さい。

## 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

合奏は個人の譜読みの場ではありません。事前に楽譜が準備出来ている場合は、必ず個人レベルでの譜読みを済ませておくこと（曲数や難易度にもよりますが60分程度の予習復習を心掛けましょう）。また自分が演奏しない演奏会にも聴衆として積極的に参加し、良い学修の機会として下さい。また依頼等の状況によりDVD収録やCD録音など特別な実習を行うことがあります。

## 教科書・参考書

特になし

科目名-クラス名

## 合奏特別演習②

吹奏楽

## 曜日時限

火 3時限

火 4時限

金 4時限

金 5時限

## 担当教員

福本 信太郎

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
演習	2～	通年	2	評価割合	0	0	0	100	0	100

## 教育到達目標と概要

年間に数回の学内外演奏会及び発表会を行い、それぞれの公演に向けて個々及びバンド全体の演奏レベルを高めるとともに、楽員一同が集中して1つの楽曲をつくりあげていくときの厳しさ、喜びを体験します（全員が年間に2回以上テアトロ・ジューリオ・ショウワのステージを経験します）。特に定期公演においては授業の研究発表としての演奏のみならず、聴衆の喜びや感動を呼び起こすような個性的なひとつの演奏団体としての成長も目指していきます。

## 学修成果

吹奏楽を経験することにより、大合奏上での様々な制約、約束ごとを理解することができます。

個人レッスンとは異なった面から音楽全体を把握する能力を養うことができます。

アンサンブルのマナーやルールを通じて、演奏家として、また社会人としてふさわしい”人”としてのありかたを身につけることができます。

## 授業展開と内容

## 第1回 前期授業オリエンテーション

・前期の授業説明（基本的に3つのグループに分けて合奏を進めます）や担当教員、各リーダーの紹介などを行います。履修人数が非常に多い授業のため、場合によっては時間と会場を分けて行います。

## 第2回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：譜読み

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：譜読み

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：譜読み

## 第3回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：楽曲分析と演奏へのフィードバック

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：楽曲分析と演奏へのフィードバック

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：楽曲分析と演奏へのフィードバック

## 第4回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：作品と作曲家、時代背景の研究

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：作品と作曲家、時代背景の研究

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：作品と作曲家、時代背景の研究

## 第5回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：ディナーミクとアゴーギクについての考察

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：ディナーミクとアゴーギクについての考察

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：ディナーミクとアゴーギクについての考察

## 第6回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：深い音楽表現と効果的な演奏研究

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：深い音楽表現と効果的な演奏研究

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：深い音楽表現と効果的な演奏研究

## 第7回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：まとめ

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：まとめ

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：第1部まとめ

## 第8回 ベーシック・バンド→ベーシック・レパートリー研究：授業内発表

ウインド・オーケストラ→レパートリー研究：授業内発表

ウインド・シンフォニー→定期演奏会の練習：第2部まとめ

## 第9回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：譜読み①（前半部）

ウインド・シンフォニー→ユージーン・コーポロン教授による集中練習（月曜日～金曜日）（演奏会は6月4日土曜日）

## 第10回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：譜読み②（後半部）

## 第11回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究

## 第12回 ベーシック・バンド→特別演奏会リハーサル：総練習（6月25日土曜日に特別練習あり、演奏会は6月26日日曜日）

ウインド・オーケストラ→特別演奏会リハーサル：総練習（6月25日土曜日に特別練習あり、演奏会は6月26日日曜日）

## 第13回 同属楽器アンサンブル特別授業（木管楽器）＊編成は変更の可能性があります。

## 第14回 同属楽器アンサンブル特別授業（金管打楽器）＊編成は変更の可能性があります。

第15回 同属楽器アンサンブル特別授業（プラスバンド）＊編成は変更の可能性があります。

第16回	後期授業オリエンテーション ・後期の授業説明（4つのグループに分けて合奏を進めます）を行います。履修人数が非常に多い授業のため、場合によっては時間と会場を分けて行います。
第17回	ベーシック・バンド→ユリホール（ウインドシンフォニーコース3年）指導実習演奏会リハーサル：譜読み①（前半部） ウインド・オーケストラ→ジーリオ（ウインドシンフォニーコース4年）指導実習演奏会リハーサル：譜読み①（前半部） ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：譜読み①（前半部）
第18回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：譜読み②（後半部） ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：譜読み②（後半部） ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：譜読み②（後半部）
第19回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習①（前半部） ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習①（前半部） ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：楽曲分析と演奏へのフィードバック
第20回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習②（後半部） ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習②（後半部） ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：作品と作曲家、時代背景の研究
第21回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習③（全体） ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：学生による合奏練習③（全体） ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：ディナーミックとアゴーギクについての考察
第22回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：指揮法レッスン ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：指揮法レッスン ウインド・シンフォニー→学園祭リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究（演奏会は11月6日）
第23回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：楽曲分析および作品と作曲家、時代背景の研究 ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：楽曲分析および作品と作曲家、時代背景の研究 吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：譜読み ウインド・シンフォニー→レコーディング実習：譜読み
第24回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：ディナーミックとアゴーギクについての考察 ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：ディナーミックとアゴーギクについての考察 吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：楽曲分析と演奏へのフィードバック ウインド・シンフォニー→レコーディング実習：深い音楽表現と効果的な演奏研究（収録日未定）
第25回	ベーシック・バンド→ユリホール指導実習演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究 ウインド・オーケストラ→ジーリオ指導実習演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究 吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：作品と作曲家の時代背景の研究、ディナーミックとアゴーギクについての考察
第26回	ベーシック・バンド→総練習とウインドシンフォニーコース3年指導実習演奏会（ユリホール） ウインド・オーケストラ→総練習とウインドシンフォニーコース4年指導実習演奏会（ジーリオ） 吹奏楽団→定期演奏会リハーサル：深い音楽表現と効果的な演奏研究および総練習（12月3日土曜日に特別練習有り）（演奏会は12月4日）
第27回	ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：譜読み 同属楽器アンサンブル特別授業（木管楽器）＊編成は変更の可能性があります。
第28回	ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：バンドのみでの練習 同属楽器アンサンブル特別授業（金管打楽器）＊編成は変更の可能性があります。
第29回	ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：ソロ合わせ 同属楽器アンサンブル特別授業（プラスバンド）＊編成は変更の可能性があります。
第30回	ウインド・オーケストラ→コンチェルト実習：総練習と発表演奏

## 履修上の注意

細かな予定については楽器室前の掲示板上に随時発表するのでよく確認すること。合奏においては、どのパートが欠けても問題が生じてしまいます。自身の乗り番の時には欠席は認められません（やむを得ない場合は事前にインスペクターに所定の方法で届け出て下さい）。合奏には指示の書き込み用に2B以上の鉛筆を持参すること。授業で使用する楽譜についてはライブラリアンの指示に従って各自用意して下さい。合奏のためには椅子や譜面台の準備、片付けが必須です。消毒などが必要な場合もあるので授業時間の前後には積極的に作業に参加して下さい。

## 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

合奏は個人の譜読みの場ではありません。事前に楽譜が準備出来ている場合は、必ず個人レベルでの譜読みを済ませておくこと（曲数や難易度にもよりますが60分程度の予習復習を心掛けましょう）。また自分が演奏しない演奏会にも聴衆として積極的に参加し、良い学修の機会として下さい。また依頼等の状況によりDVD収録やCD録音など特別な実習を行うことがあります。

## 教科書・参考書

特になし

科目名－クラス名

**器楽 I ①****曜日時限****担当教員**

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
実技・実習	1～	通年	6	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				100	0	0	0	0	

**教育到達目標と概要**

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

**学修成果**

基礎的なテクニックや、音楽を学ぶものとしての取り組み方の基本を身につける事ができる。

**授業展開と内容**

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	基礎的な練習の必要性ならびに練習の進め方についての演習
第3回	音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習1（基礎を中心に）
第4回	音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習2（上記の応用）
第5回	各自のレベルに合わせた教則本を取り上げ、その教則本が意図している目標を理解する
第6回	教則本の目標に沿って的確に演奏できているか、さらに強化すべきことは何かを学ぶ
第7回	個々の長所短所を理解し、訓練によって苦手を克服する
第8回	音階、教則本に加え、段階に応じて専攻楽器のための作品について取り上げる
第9回	音楽作品を演奏する際に大切な、取り組みの姿勢について学ぶ
第10回	楽器の音色、音質にこだわって演奏できているかを確認する
第11回	演奏を客観的に捉え、いい音程で演奏できているかを確認する
第12回	音楽作品を楽譜に忠実に演奏できているかを確認する
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲の楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Bの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

**履修上の注意**

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。



■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

**器楽 I ①****曜日時限****担当教員**

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出		
実技・実習	1～	通年	6	100	0	0	0	0	100

**教育到達目標と概要**

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

**学修成果**

基礎的なテクニックや、音楽を学ぶものとしての取り組み方の基本を身につける事ができる。

**授業展開と内容**

- 第1回 オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
- 第2回 基礎的な練習の必要性ならびに練習の進め方についての演習
- 第3回 音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習1（基礎を中心に）
- 第4回 音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習2（上記の応用）
- 第5回 各自のレベルに合わせた教則本を取り上げ、その教則本が意図している目標を理解する
- 第6回 教則本の目標に沿って的確に演奏できているか、さらに強化すべきことは何かを学ぶ
- 第7回 個々の長所短所を理解し、訓練によって苦手を克服する
- 第8回 音階、教則本に加え、段階に応じて専攻楽器のための作品について取り上げる
- 第9回 音楽作品を演奏する際に大切な、取り組みの姿勢について学ぶ
- 第10回 楽器の音色、音質にこだわって演奏できているかを確認する
- 第11回 演奏を客観的に捉え、いい音程で演奏できているかを確認する
- 第12回 音楽作品を楽譜に忠実に演奏できているかを確認する
- 第13回 前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲の楽曲分析）
- 第14回 前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
- 第15回 前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
- 第16回 夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
- 第17回 作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第18回 作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第19回 作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第20回 作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第21回 作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第22回 作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第23回 作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第24回 作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第25回 作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第26回 作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第27回 作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第28回 作品Bの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第29回 後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
- 第30回 後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

**履修上の注意**

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

**器楽 I ①****曜日時限****担当教員**

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	1～	通年	6	100	0	0	0	0	100

**教育到達目標と概要**

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

**学修成果**

基礎的なテクニックや、音楽を学ぶものとしての取り組み方の基本を身につける事ができる。

**授業展開と内容**

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	基礎的な練習の必要性ならびに練習の進め方についての演習
第3回	音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習1（基礎を中心に）
第4回	音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習2（上記の応用）
第5回	各自のレベルに合わせた教則本を取り上げ、その教則本が意図している目標を理解する
第6回	教則本の目標に沿って的確に演奏できているか、さらに強化すべきことは何かを学ぶ
第7回	個々の長所短所を理解し、訓練によって苦手を克服する
第8回	音階、教則本に加え、段階に応じて専攻楽器のための作品について取り上げる
第9回	音楽作品を演奏する際に大切な、取り組みの姿勢について学ぶ
第10回	楽器の音色、音質にこだわって演奏できているかを確認する
第11回	演奏を客観的に捉え、いい音程で演奏できているかを確認する
第12回	音楽作品を楽譜に忠実に演奏できているかを確認する
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲の楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Bの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

**履修上の注意**

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

## 器楽Ⅰ②

## 曜日時限

実技

## 担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験 授業内小テスト	合計
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出		
実技・実習	2～	通年	6	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

## 学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	テクニックを要する練習曲の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	テクニックを要する練習曲の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	テクニックを要する練習曲の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	テクニックを要する練習曲の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	テクニックを要する練習曲の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	テクニックを要する練習曲の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	オーソドックスな作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	オーソドックスな作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	オーソドックスな作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	オーソドックスな作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	オーソドックスな作品の表現についての演習（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	テクニックを要する作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	テクニックを要する作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	テクニックを要する作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	テクニックを要する作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	テクニックを要する作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	テクニックを要する作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

## 履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

## 器楽Ⅰ②

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出			成果発表
実技・実習	2～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

## 学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	テクニックを要する練習曲の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	テクニックを要する練習曲の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	テクニックを要する練習曲の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	テクニックを要する練習曲の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	テクニックを要する練習曲の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	テクニックを要する練習曲の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	オーソドックスな作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	オーソドックスな作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	オーソドックスな作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	オーソドックスな作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	オーソドックスな作品の表現についての演習（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	テクニックを要する作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	テクニックを要する作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	テクニックを要する作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	テクニックを要する作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	テクニックを要する作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	テクニックを要する作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	卒業試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	卒業試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	卒業試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	卒業試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	卒業試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	卒業試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	卒業試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	卒業試験課題曲の最終仕上げ

## 履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。



■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

## 器楽Ⅰ②

## 曜日時限

実技

## 担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験 授業内小テスト	合計
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出		
実技・実習	2～	通年	6	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

## 学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。

## 授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
- 第2回 テクニックを要する練習曲の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第3回 テクニックを要する練習曲の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第4回 テクニックを要する練習曲の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第5回 テクニックを要する練習曲の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第6回 テクニックを要する練習曲の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第7回 テクニックを要する練習曲の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第8回 オーソドックスな作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第9回 オーソドックスな作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第10回 オーソドックスな作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第11回 オーソドックスな作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第12回 オーソドックスな作品の表現についての演習（アイデアを音にする）
- 第13回 前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
- 第14回 前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
- 第15回 前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
- 第16回 夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
- 第17回 テクニックを要する作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第18回 テクニックを要する作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第19回 テクニックを要する作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第20回 テクニックを要する作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第21回 テクニックを要する作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第22回 テクニックを要する作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第23回 後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第24回 後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第25回 後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第26回 後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第27回 後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第28回 後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第29回 後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
- 第30回 後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

## 履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

**器楽 I ②**

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	2～	通年	6	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
- 第2回 テクニックを要する練習曲の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第3回 テクニックを要する練習曲の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第4回 テクニックを要する練習曲の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第5回 テクニックを要する練習曲の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第6回 テクニックを要する練習曲の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第7回 テクニックを要する練習曲の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第8回 オーソドックスな作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第9回 オーソドックスな作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第10回 オーソドックスな作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第11回 オーソドックスな作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第12回 オーソドックスな作品の表現についての演習（アイデアを音にする）
- 第13回 前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
- 第14回 前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
- 第15回 前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
- 第16回 夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
- 第17回 テクニックを要する作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第18回 テクニックを要する作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第19回 テクニックを要する作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第20回 テクニックを要する作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第21回 テクニックを要する作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第22回 テクニックを要する作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第23回 卒業試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第24回 卒業試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第25回 卒業試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第26回 卒業試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第27回 卒業試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第28回 卒業試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第29回 卒業試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
- 第30回 卒業試験課題曲の最終仕上げ

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

**器楽 I ②**

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出			成果発表
実技・実習	2～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
- 第2回 テクニックを要する練習曲の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第3回 テクニックを要する練習曲の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第4回 テクニックを要する練習曲の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第5回 テクニックを要する練習曲の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第6回 テクニックを要する練習曲の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第7回 テクニックを要する練習曲の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第8回 オーソドックスな作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第9回 オーソドックスな作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第10回 オーソドックスな作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第11回 オーソドックスな作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第12回 オーソドックスな作品の表現についての演習（アイデアを音にする）
- 第13回 前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
- 第14回 前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
- 第15回 前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
- 第16回 夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
- 第17回 テクニックを要する作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第18回 テクニックを要する作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第19回 テクニックを要する作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第20回 テクニックを要する作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第21回 テクニックを要する作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第22回 テクニックを要する作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第23回 卒業試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第24回 卒業試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第25回 卒業試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第26回 卒業試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第27回 卒業試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第28回 卒業試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第29回 卒業試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
- 第30回 卒業試験課題曲の最終仕上げ

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

**器楽 I ③**

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	3～	通年	6	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。①②で修得した成果をもとに、豊かな表現力を身につけることができる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
- 第2回 重要なレパートリーの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第3回 重要なレパートリーの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第4回 重要なレパートリーの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第5回 重要なレパートリーの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第6回 重要なレパートリーの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第7回 重要なレパートリーの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第8回 前期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第9回 前期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第10回 前期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第11回 前期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第12回 前期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第13回 前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
- 第14回 前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
- 第15回 前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
- 第16回 夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
- 第17回 技術的に高度な作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第18回 技術的に高度な作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第19回 技術的に高度な作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第20回 技術的に高度な作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第21回 技術的に高度な作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第22回 技術的に高度な作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第23回 後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第24回 後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第25回 後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第26回 後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第27回 後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第28回 後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第29回 後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
- 第30回 後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。



■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

**器楽 I ③**

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	3～	通年	6	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。①②で修得した成果をもとに、豊かな表現力を身につけることができる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
- 第2回 重要なレパートリーの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第3回 重要なレパートリーの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第4回 重要なレパートリーの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第5回 重要なレパートリーの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第6回 重要なレパートリーの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第7回 重要なレパートリーの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第8回 前期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第9回 前期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第10回 前期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第11回 前期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第12回 前期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第13回 前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
- 第14回 前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
- 第15回 前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
- 第16回 夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
- 第17回 技術的に高度な作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第18回 技術的に高度な作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第19回 技術的に高度な作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第20回 技術的に高度な作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第21回 技術的に高度な作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第22回 技術的に高度な作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第23回 後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第24回 後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第25回 後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第26回 後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第27回 後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第28回 後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第29回 後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
- 第30回 後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

**器楽 I ④**

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	4～	通年	6		100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。①～③で学修した内容をさらに発展させ、より高度で専門性を持った音楽人として成長ができる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
- 第2回 協奏曲の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第3回 協奏曲の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第4回 協奏曲の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第5回 協奏曲の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第6回 協奏曲の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第7回 協奏曲の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第8回 前期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第9回 前期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第10回 前期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第11回 前期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第12回 前期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第13回 前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
- 第14回 前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
- 第15回 前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
- 第16回 夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
- 第17回 独奏曲の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第18回 独奏曲の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第19回 独奏曲の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第20回 独奏曲の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第21回 独奏曲の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第22回 独奏曲の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第23回 卒業試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第24回 卒業試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第25回 卒業試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第26回 卒業試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第27回 卒業試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第28回 卒業試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第29回 卒業試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
- 第30回 卒業試験課題曲の最終仕上げと4年間のまとめ

■履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

---

■授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

■教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

**器楽 I ④**

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	4～	通年	6		100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。①～③で学修した内容をさらに発展させ、より高度で専門性を持った音楽人として成長ができる。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	協奏曲の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	協奏曲の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	協奏曲の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	協奏曲の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	協奏曲の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	協奏曲の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	前期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	前期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	前期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	前期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	前期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	独奏曲の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	独奏曲の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	独奏曲の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	独奏曲の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	独奏曲の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	独奏曲の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	卒業試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	卒業試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	卒業試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	卒業試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	卒業試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	卒業試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	卒業試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	卒業試験課題曲の最終仕上げと4年間のまとめ

■履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

---

■授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

■教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

## 器楽実技Ⅱ③

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	3～	通年	3	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースのための主科実技レッスンであり、「器楽実技Ⅰ③」に付随したものである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

## 学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。①・②で修得した技術や知識を応用し、アーティストとしての能力を総合的に高め、更に感性豊かな表現能力が身に付く。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について



履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

## 器楽実技Ⅱ③

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	3～	通年	3	評価方法	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースのための主科実技レッスンであり、「器楽実技Ⅰ③」に付随したものである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

## 学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。①・②で修得した技術や知識を応用し、アーティストとしての能力を総合的に高め、更に感性豊かな表現能力が身に付く。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

## 2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：870 教員名：福本信太郎

### 1) 評価結果に対する所見

・“合奏（サクソフォーン）”および“吹奏楽概論ⅠⅡ”については、履修者の学修意欲も高く、満足度も高い結果となった。出席状況や予習・復習については若干名の消極的意見があるので、学生個々への声かけ等積極的にコミュニケーションをとっていく必要があると考える。

・大学院の“音楽指導論特殊講義”は1回のみ授業担当であるが、その授業に対してのレポートが義務付けられており、授業後の早い段階で履修者の感想を知ることができた。今回のアンケートからは読み取ることができないが、多くの履修者が授業内容をよく理解し、ポイントとなるワードやセンテンスをしっかりとキャッチできていることが把握できた。

### 2) 要望への対応・改善方策

・各授業について特に学生からの要望は無かった。

### 3) 今後の課題

・“合奏（サクソフォーン）”については、概ね高い評価であることから現在の授業内容で良いと考えるが、3つのクラスの統括や発表の機会など、次年度に向けて改善を検討していきたい。

・“吹奏楽概論ⅠⅡ”については、満足度の高い現在のシラバスを踏襲しつつも、さらに発展的な内容を盛り込むことができないか検討したい。

・“音楽指導論特殊講義”については学部の教職課程履修者に行っている“教職実践演習”の吹奏楽指導法と同じような内容の授業を行ったが、履修者の中には学部生の時に既にその授業を受けている者がいた。内容はブラッシュアップしたものではあったが、やはり別の角度からの指導法を論ずることができれば良かったのかもしれない。次回担当時には検討したい。

以上

## 2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：870 教員名：福本信太郎

### 1) 評価結果に対する所見

履修者数に対して回答者数の少なさが気になるものの、学生は概ね授業内容に満足していることが見て取れる。しかしながら少数ではあるものの不満を抱えている学生がおり、その不満の大きさには対応していく必要性を感じる。いわば消極的満足と積極的不満足といった学生の感情が結果に現れているようである。

### 2) 要望への対応・改善方策

一部の学生への負担が大きすぎる点については毎年苦慮している部分である。例えば負担を分散させた結果、演奏の質が下がることは学生たちも望んではないはずである。大学を代表して演奏するようなコンサートでは、その責任の重さが音楽人としての成長につながる部分もあり、大学の教育活動としては必要不可欠でもある。体調を崩す、レッスンへの不安などの思いを持った学生が気軽に教員に相談できるような体制を作るよう検討したい。

本番後に反省会を行うのはどうか、という意見があった。コロナ禍以前の演奏会では学生が集まってパーティをする中で様々な意見（演奏会直後の熱意の高い意見が多かった）を得ることができていた。徐々に生活や環境が元に戻る中で、頂いた意見のようなセッションを行えるよう規模や機会を検討したい。

### 3) 今後の課題

学園の中でも最も大人数が関わる授業とも言える“吹奏楽”であるため、準備の段階から演奏会の実施まで学生諸君の協力無しには到底進めることはできない。

インスペクターを中心として履修者の献身性や努力には改めて感謝したい。

年間を通じて様々なスタイルの演奏会があるが、そのどれもが大変充実したものであり、高い評価を得ることもできている。

今後も新しいものと伝統的なもののバランスを保ちつつ、履修者が満足できるような授業内容を検討していきたい。

以 上